

GAPニュースレター改題

Cosmic Philosophy & UFOs

GAP-JAPAN
NEWSLETTER
季刊日本GAP機関誌

宇宙哲学とUFO

読者定価 / ジョージ・アダムスキー

土星旅行記(2)

WINTER 1982

No. **76**

盛況 / 81年度

日本GAP
総会 講演集

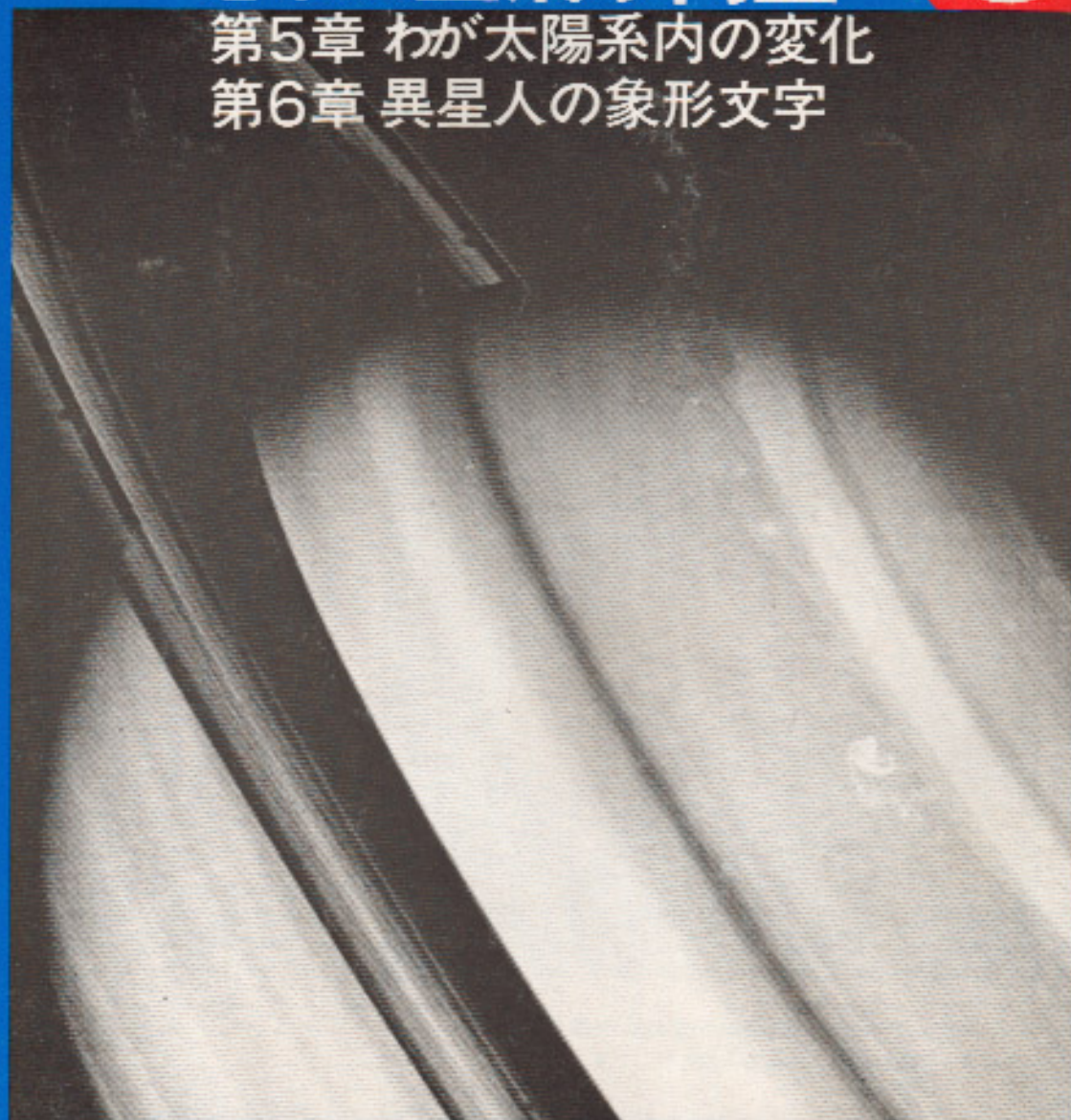
私にとっての宇宙哲学 伊藤正仁
惑星地球におけるレッスン 山口 誠
アダムスキー問題を研究して 武田光弘
アダムスキー哲学の実践の喜び 尾立真実



ジョージ・アダムスキー

さらば空飛ぶ円盤(4)

第5章 わが太陽系内の変化
第6章 異星人の象形文字



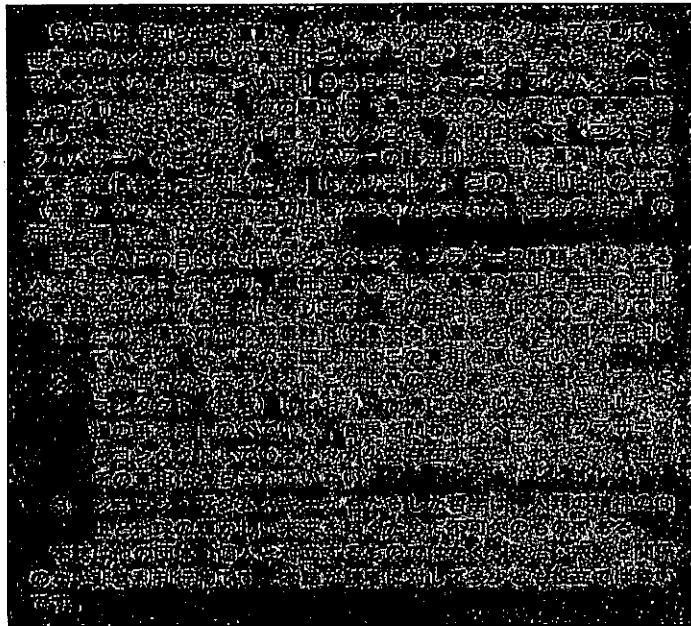
土星旅行記? G.アダムスキー……………2

1981年
日本GAP総会……………6

81年度日本GAP総会に出席して 齋藤泰文……………7
 私にとっての宇宙哲学 伊藤重信……………10
 惑星地球におけるレッスン 山口 緑……………13
 アダムスキー問題を研究して 武田充弘……………16
 アダムスキー哲学の実践の喜び 足立亘宏……………18
 総会の日にUFOを目撃(その1) 伊藤達夫……………20
 " (その2) 仲間秀樹
 " (その3) 橋口眞市
 〈写真〉総会当日のUFO 松村芳之……………22
 さらば空飛ぶ円盤(4) G.アダムスキー……………23
 第5章 わが太陽系内の変化
 第6章 異星人の象形文字
 〈写真〉眠れる地球人……………27
 回想のアメリカ・メキシコの旅(2)……………28
 〈予告〉 沖縄支部大会と南国の旅……………32
 読者の声「コズミック・ポスト」……………33
 〈予告〉 エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅……………36
 日本GAP各地行事報告と予告……………38
 日本GAP全国月例研究会案内……………40



GAPとは



■表紙写真は1981年8月22日、アメリカの惑星探査機ボイジャー2号が土星から1390キロの距離で撮影したもの。環の影が土星の赤道付近に写っている。

従来日本GAPはUFO自体よりもアダムスキーの脱く宇宙哲学の研究と実践を主体に促進活動を展開してきたのであるが、この方針は今後も変わらない。なぜならUFO（未確認飛行物体）の何たるかはすでにア氏の著書で熟知済であるし、科学研究所を設立して本物の反重力宇宙船を開発するにはスタッフや資金面であまりに無力なため、なによりもまず人間の精神の分野に注目して、万人に潜在する偉大な能力を引き出すことに専念しようという趣旨のもとに多年GAP活動を展開したところ、幸いにも多数の方の賛同と支持を得て今日に及んだからである。

人間の精神面で重視すべきものが二つある。信念の力と超能力だ。前者についてはミラクルワードを唱えて反覆思念を続けたりイメージを描いたりして奇跡を生ぜしめることがいまはGAP会員間で日常茶飯事となったが、超能力の開発は日暮れて道遠しの感あり、容易に進展しないため、しびれを切らして会を去って行く人も少なからずある。

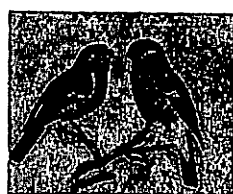
しかしこれはライフワーク（生涯をかけて続行すべき事柄）であり、強烈な信念と忍耐力を要する難事であると思われるので、安易に考えて関心を失うことのないように注意しなければならぬ。

・口に超能力といっても（超能力という語は好ましくないが、他に適当な語が見当たらないので一応これを使用する）、テレパシー（精神感應作用により他人の心中の想念をキャッチして相手が何を考えているかを理解する）、遠隔透視（肉眼

の視界外に存在する人間、物品、風景等をテレビ画像を見るがごとくに透視する。または眼前にある封のされた容器中の物品を透視する）、過去及び未来に対する透視（自分または他人の過去世を透視したり、未来の出来事を透視するか予知する）、オーラ透視（人体や物品から放射されるオーラを透視する）等がある。

アダムスキーによれば偉大な進歩をとげた感星の人々はこれらの超能力を駆使して天国のごとき社会を築き上げているという。宜なるかな、地球世界が地獄に等しい状態なのは、時間や金銭に束縛されているからでもあるが、他人の想念が

＜巻頭言＞
の要
の重
が重
が開
テレパシー



見抜けないために猜疑心（*guilt consciousness*）を起すことから不信、憎悪、対立、抗争等が展開するからである。テレパシーで他人の心中を見抜き見抜かれていればウソはつけないので画期的な社会が出現するだろう。

地球がこのように発達するには万人がテレパシクな感知力を持つ必要がある。まだまだ数千年を要するかもしれないが、個人的にこれらの能力を開発するのは決して不可能ではない。練習次第でわずかなづつでも能力が出てくるのである。それには不屈の信念と忍耐力を土台とすることは前述のとおりだ。

この練習法はアダムスキーの「テレパシー」「生命の科学」「宇宙哲学」等一連の著書に詳述してあるので、それをテキストにして丹念に研究し、日夜練習を続ければよい。

アダムスキーの理論によれば、これらの能力は万人に潜在するけれども一般人はそれに気づかぬままマインド（心）だけで判断するクセを身につけてしまったので、特殊な能力は眠ったままの状態にあるという。そこでまずマインドに頼るクセをやめて、内奥からわき出るインスピレーションに耳を傾ける練習をする。このインスピレーションこそ全身に宿る宇宙的パワーから来るもので、このパワーは万事を知るものであり、また万物を生かす根源なる意識であるから、アダムスキーはこれを *being consciousness*（宇宙の意識）と名付けている。呼称はどうであれ、たしかに万物には人間の理解力を絶する或る宇宙的な英知が宿るのである。それは人体を観察するだけでも充分である。病気を自然に治す人体内の自然治癒力はその一例だ。いや、驚異的に複雑精妙きわまりない人体の形成こそまさに奇跡であり、そして宇宙に人間という生物が存在することこそ不可思議な奇跡であつてみれば、宇宙には人知で測り知れぬ意図的な英知が遍満すると考えても不合理ではない。その英知の最表層における湧出がインスピレーションといふかたちで現れるのである。

さて、テレパシーの開発に重要なのは受信力である。盲いさえれば異常なまでに敏感になることだ。このためにアダム

スキーは心身をリラクセスさせることを強調している。そしてこれは何も考えずにポーズとなることではないと脱く。つまり雑念があつてもかまわないという意味なのだが、このところは非常に難しくて不可解だという人も多いだろう。

これには一つのヒントがある。リラクセスするというのは安楽椅子にだらりと寝そべっていることではない。むしろ、外界（自分以外の周囲の世界や物事）に対する「こだわり」をなくすことである。ただし無関心になることではない。一切の物に関心を持ちながらも、一切の物にこだわらないという心境である。「よけいに難しいではないか」と言われようが、これは言葉による解釈よりもフィリングの問題なので、説明は困難だ。

外界に対する「こだわり」をなくすとともに、自分自身に対するこだわりもなくなる。そして万物の中に没入するのである。しかし四官（眼、耳、鼻、口）という四つの感覚器官が邪魔するので、これらをコントロールする必要がある。なぜなら四官の各細胞群が独断と偏見によつて勝手に解釈をしているからで、この事実が科学的に解明されている。

以上の詳細はアダムスキーの「テレパシー」に主として詳述してあるが、人間の発達には程度差があるので、練習にあたっては自分なりの方法を考案するといふだろう。

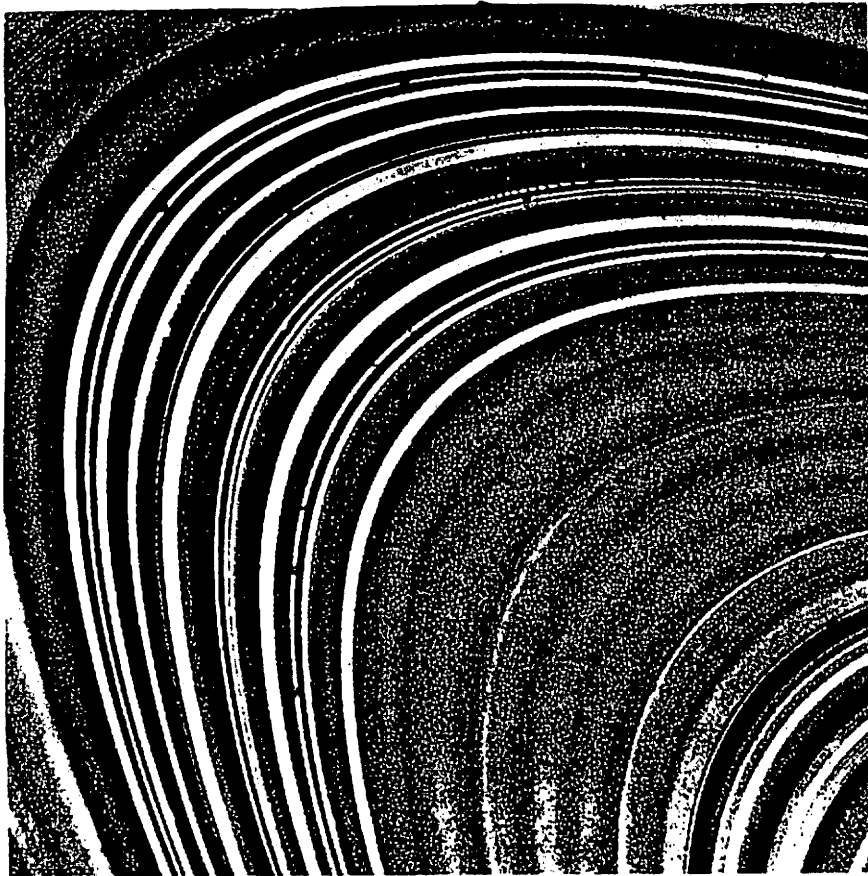
テレパシクな敏感な人間になることが宇宙的である。これを志向するには万物一体のフィリングが不可欠であるからだ。

驚異実話ノ

土星旅行記

(2)

ジョージ・アダムスキー / 久保田八郎訳



●昨年8月23日、土星に大接近した惑星探査機ボイジャー2号が撮影した土星のCリング。上端はBリング。明るいもの、暗いものなど60本以上の小環が見られる。

●第一部

地球の過去と 自然の法則

きるかどうかはわかりませんが、とにかく最善をつくしてみましょ。

宇宙船(注)別な惑星から来た巨大な母船。アダムスキーはこれに乗せられて土星の太陽系会議に出席した)は地球を出発して九時間後に土星に着陸しました。あの遠距離を考えてみればこの九時間というのは信じられないかもしれませんが、どうしてそれがなされたかについて説明してみたいと思います。

なぜ超高速で土星に行けたか

意識的な想念のスピードには限界がありません。土星へ私を運んでくれた宇宙船は意識の法則と同じ原理を応用して建造されています。ひとたび地球の大気圏外へ脱出すると、この宇宙船は人間の意識的な想念と同じ作用原理にもとづいて動き始めます。意識的な態度をとるのだといってよいでしょう。その場合、船体の材質となっているすべての分子や原子

が一つの奉仕、すなわち目的地へ人体を運ぶという奉仕のために結集した意識的

一九六二年三月二十六日、アメリカの一航空基地に着陸した土星の巨大母船に乗ったアダムスキーは、土星で開かれた太陽系会議に地球代表として出席し、壮麗きわまりない土星の光景や、土星人の天国のような世界を伝えてきた(前号の第一部に掲載)。これは太陽系の地球以外の惑星に人間は存在しないとする大國政府の隠蔽策を根本からくつがえす驚異の実話である。なお、アメリカの一航空基地、というのはワシントン市郊外のラングレイ空軍基地で「暫降時に米政府の一高官が母船内に乗り込んで会談を行った(前号)」というのはケネディー大統領であったと思われる。

私の土星旅行について第二部を公表する許可をスペースブラザーズ(注)太陽系内の友好的な異星人)から与えられましたので、ここに発表します。

まず私が乗った宇宙船のスピードに関して質問を寄せられた方々に次のようにお答えしましょう。乗船しているときに受けた感じをわかりやすい言葉で説明で

な実体となります。このときは人間の知っている時間というものは関係ありません。行こうとすれば全く瞬間に行けたかもしれないからです。あの場合には私たちにこの特殊な法則を知らせるためと、私たちが持つことになっていた体験に体の綱子を合わせるために、わざと（九時間という）時間がかけられました。

私が説明し得る限りでは、この法則はある光景を描く画家に似ていて、鑑賞者がその作品を見るとき、絵具やキャンパスの存在を知っていながらも、その絵があたかも実際の光景であるかのごとく感じるほどに自分がその中に没入するのと同じです。

私が乗った宇宙船はこのような法則のもとに造られていて、あらゆる分子や原子となつて無数の実体でもって建造された一つの実体ともいべきものです。

天使の翼で運ばれる

この体験は私に一つの事柄を説明しました。それは「天使の翼で運ばれる」という表現で意味されるものです。その宇宙船は他の宇宙船と同様に固体の物体であつて、金属で作られています。そして流星に出会えばそれを避けることができず。

私たちが船内にいたあいだは読者がこの記事を読んでおられるときと変わりない正常な状態にありましたが、肉体は軽くなったような気がして、言葉であらわせない感じ、すなわち「永遠の安らかさ」といった感じを体験しました。

地球から遠く離れたという距離感や奇妙さはありませんし、私の心は微妙な手でいたわられているという感じを私に与えました。あとで知らされたところによりますと、私の体の分子が（船体と）一体化の感じを起こしたのだということでした。

また無限の空間を進行するその宇宙船を外から眺めたならば、私はその船体をただの一個のきらめく星だと思ったことだろうということも知らされました。

これは宇宙の万物を動かして支えている宇宙の法則とエネルギーを応用した宇宙船です。この宇宙船の実際のスピードを数字であらわすことはできません。というのは、この型の宇宙船は主として非常な距離にある太陽系へ行くために用いられるのであつて、緊急事態が生じない限り、一太陽系内の惑星間に使用されることはめつたにないからです。船内のあらゆる物が優美きわまりなく、受ける感じは筆舌につくしがたいものがあります。

パイロットたちでさえも普通の状態ではありませんでした。なぜなら船内にはあらゆる型の装置がありましたけれども、それらもパイロット自身の意識に服従していたからです。

一同が土星に着陸して船体を見たとき、それはきわめて微妙な生き生きとした色で輝いていました。そして降りた人たちが互いに見合ったときも、だれもが同じように輝いていました。一同は船体にあるのと同じパワーを浴びていたのです。

しかし一時間ばかりしてからその輝きは消えてしまいました。

偉大な十二人の付き添い

この旅行記の第一部で（注II本誌第75号）、私は着陸後の手順と会議が開かれた建物について説明しました。私たちのテーブルについていた人々に関してはすでに述べましたが、別に十二名のテーブルがあつたことは書きませんでした。この各十二名のテーブルというは、一つのテーブルに一人づつ十二人の偉大な人たちが着席していて、その人たちと一緒に各惑星の代表が座っていたのです。この偉大な十二人とはかつて地球で救世主として知られていた人々です。

ここで読者は尋ねるかもしれません。「地球代表用のテーブルに付き添っていた偉人はだれであつたか？」と。

その人は偉大な十二人の代表者なのであつて、すべての意識的意識の一体化した人でした。地球でならば一般人はこのような人を創造主の意識として分類し、「キリスト（救世主）」と呼ぶかもしれませんが。しかしこれはイエスを意味するものではありません。イエスは一人間なのであつて、「キリスト」とは意識的意識または宇宙の意識であるからです。一個人としてのイエスは自己の肉体を通じてこの意識を表現するように自身を訓練した人なのであつて、これによって彼は次のように言うことができたのです。

「この世の肉体人間としての私は創造主と融合している。それゆえ私は「父」と

一体であると言うことができる」
そこに出席していた「救世主」たちのすべては、かつて地球にいたことがあつて、いづれも真実の生き方を示すために一つの目的をもって（地球に転生して）来たのでした。彼らが訪れたのは地球ばかりではなく、火星へも（転生して）行ったことがあるということでした。

地球の遠い過去の事態

地球と同様に火星もその惑星上に存在した多くの文明を破壊したことがあるのです。実は地球にやつて来て地球人に戦争というゲームを教えたのは火星人でした。現在火星人は地球人よりもはるかに進化して戦争という点を克服しています。また、さほど進歩していない面もあつて、事あれば防衛態勢にたち返るかもしれません。彼らはそうするべき立腹の原因を持たざるを得ないでしょう。

一方、金星や土星にはこんな傾向はありません。火星は金星や土星と違って一方の頬を打たれたら他方の頬を差し出すことはしないでしょう。

約一万年前に多数の進化した金星人が当時地球で行われていた火星人の慣習に反対するために地球へ移住してきました。そして人類の進化の方向へむかつてその悪慣習のいくらかを変えさせることに成功しました。実際この太陽系内の各惑星から来た人々は地球に定住し、地球人を支配するために互いに戦つたのです。戦争を否定した人たちはそうでない人々によって殺されました。そのなかには金星

人が含まれています。

このようにしてさまざまの主義が混ざり合い、地球上に混乱が広がり、それ以来多種類の神々が礼拝されてきました。これが他の惑星の人間が地球人のあいだにまいた悪を正すために現在地球に關心を注いでいる一つの理由です。

これはまた、古代の(別な惑星からの)訪問者たちが地球人の想像力をあおりたてて「地球人は他の惑星の人間を尊敬してそれに奉仕しなければならぬ」という考え方を起こさせたときに地上に残された誤った物語をなくそうとして多くの救世主が(転生して)やって来た理由でもあります。

どのようにして地球は裏切られたか

はるかに遠い大昔、この太陽系中の三つの惑星だけが地球人を裏切りました。それは水星、火星、木星です。木星人は木星こそ宇宙の神の住家であるという印象を残したのですが、これは誤っています。こうして神話においては木星は神の星として知られていました。

土星は悪魔の星とみなされてきましたが、これは木星から来た人々がウソを教えたのです。土星は審判の惑星です。惑星間のこうした不和は長く続き、争いのほとんどは右の三つの惑星によって起こされました。

火星は宇宙船を最初に開発した惑星で、この宇宙船は太陽系内のバランスを破るために同盟惑星群と共に使用されました。しかし現在までの五千年間は右の三つの

惑星によって修正が企てられています。

地球人を意のままにするために、空想的なものにすぎない「悪魔」がどのような手段に導入されたかについて、土星の会議で説明されました。

前記の三つの惑星に住む人間のすべてが、地球へ来た人々と意見が一致していたわけではありませんが、そのためにすさまじい見解の相違が生じました。ちょうど今日地球の各国間に見られる状態と同じです。それ以来地球にとつて一つの実態になった「悪魔」が宗教的な分子によって恐怖の手段として利用されてきました。これはその分子の指令に従わせるために信者を抑圧するかまたは懲罰するためです。

初め人々はこの懲罰法を問題にしなかつたので、宗教の指導者たちは従わなかつた人々のために「地獄の罰」を設けました。この地獄というのは地下ではなく天空にあり、その場所として彼らは水星を選んだのです。当時地球では太陽が熱いと考えられたように水星も熱いと考えられたので、水星上の物はみな煮えだぎつているにちがいないと地球人は思っていました(注)現代の地球人もそう思っている(注)。「地獄の火の責め苦」という概念が生じたのです。人々は太陽が地上に熱を生じさせることを知っていたため、このことをきわめて簡単に信じました。「地獄へ落ちる」という言葉が用いられたとき、それは人が元の信仰からはずれてしまい、それによって罰を受けるという意味を持っていました。もちろんこんなことはみな間違っています。

ますが、今日でもその言葉の持つ目的は生きています。実際には地獄というのは人間が生命の法則(宇宙の法則)に反して生きることによって作り出すものを意味するのです。

右の偽りの教えが人間に伝えられて以来ずつと創造主と悪魔との戦いが続いています。これはまた大昔に地球人を裏切つた「墮落天使」の意味でもありません。しかし近代においては次第に光明にむかい、人間は生命の真実の生き方の意味を求めて自然を直視し始めています。それはこの生き方こそ創造主の真の表現であることを人間が知っているからです。

自然の法則のすべてを人間はどのようにして学ぶべきか

大気圏外へ進出することによって人間は他のいかなる方法によるよりも早く自然の法則を知るでしょう。自然は決して休息しないで絶えざる再生の状態にあります。人間もこの絶えまなき創造の過程にあるのであって、だからこそ「いつか人間の完成があるのだ」と感じるわけです。しかしこの事実が自分のものになる前に、人間は過去におけるよりもはるかに急速に来る多くの変化を体験するでしょう。それはいまこそ人間がすでに生命の新しい周期に入り始めているからです。もし人間がこの周期に入ろうと努力するならば、それは人間に思いもよらぬ報いをもたらずでしょう。人間は誤りのかかりに、あらゆる生命にたいする自己の關係という事実を置き代えることになり、こうして自分と創造主とは一体であるこ

とに気づくようになるでしょう。

知識と知恵の部屋は人間のために開かれています。しかし未来にたいする信念が人間の基礎でなければなりません。しかし人間はその段階に到達するまでは理解はできないのです。したがって永遠の路上で人を案内する人たちにおいては信頼と確信とがその信念の一部でなければなりません。

この過程を経るとき人間は多くの不愉快な出来事に直面するでしょうし、ある場合は苦痛さえ伴うでしょう。そのとき人間の個性や自我はそれ自身が作り出した多くの物事を捨てねばなりません。これは容易なことではありません。永遠のせまい道を歩むには強固な信念を必要とするからです。だが現在の状況からみれば、多数の人がこんなことで努力したり、変化しようとして積極的に強さと信念とを持ったりはしないかもしれませぬ。

個人が自己の思考力をまかせてしまつた地球のもろもろの束縛は存在の権利を要求するでしょう。その結果、自然の法則と非自然の法則との戦い、または過去の習慣と未来の真実との戦いが展開してきます。バビロンはいまや土台の上で揺れ始めていて、偽りの神々の名が到る所で聞かれます。神々の破壊の日が近づいているからです(注)怪しげな新興宗教の神々はほろびるの意)。しかしいつかまたこの神々はその力となって地上に出現し、多くの人は膝まづいてそれを拝むかもしれませぬ。なぜなら(眼覚めないう人間は)個人の私有財産を残そうとし

て保護を願おうとするからです。

地球では人間が主人であるかわりに、
 誤った創造物がこれまで人間の主人でし
 た。しかしいま人間はその支配力を取り
 返しつつあります。弱い人は道ばたへ脱
 落、強い人はかつて人間の生活につきま
 とつていた虚偽を屈伏させて勝利の方へ
 前進するでしょう。砂のあらゆる粒が影
 響を受けて永遠の過程の中で自身をその
 創造主の似姿の型にあてはめるでしょう。
 以上が土星の会議で出席者に与えられ
 たメッセージです。

宇宙船内で受けたレッスン

土星旅行から地球へ帰って数週間たつ
 てから私はふたたびスペースブラザーズ
 に会う光栄に浴し、彼らの「自動車学校」
 で一定期間の激しい訓練と授業を受け
 ました。この訓練というのは、私たちの
 時代の真の状態をどんなふうにして説明
 し得るか、生命の眞実性を望み、眞自我
 を求めてエゴを喜んで捨てるようにする人
 にその眞の状態をどのように伝えたらよ
 いか、という方向に努力を注ぐためのも
 のでした。永遠性が確立されるのはこう
 した方法によるのです。

「自動車学校」といっても私が乗った
 のは巨大な宇宙船で、それには法則の実
 際の作用の例証として最新式のあらゆる
 装備がしてあります。現在と未来におい
 て必要なすべての物がこんな宇宙船内に
 設備してあって、創造の法則を応用すれ
 ばどのような結果になるかを示していま
 した。また人体のいかなる部分に創造の

法則が働いているのかも教えられました。

この知識の多くをまだ一般へ公開するこ
 とはできませんが、新しいものを求めて
 古いものを投げ捨てる準備が本当にでき
 ている少数の人には伝えられるでしょう。

この宇宙船(注Ⅱ土星旅行で乗った宇
 宙船とは別なもの)は地球から五千マイ
 ル以内の位置へ来て、地球に関して宇宙
 空間で静止して、そのあいだに授業が行
 われました。船内には多数の学生と教師
 がいて、十八時間の徹底的な学習が行わ
 れましたが、いかなる種類の倦意をも感
 じる人はいませんでした。残りの二時間
 は身体の運動にあてられて、あとの四時
 間は自由時間です。これは幾日も続きま
 した。

これと同様の授業がいずれまた行われ
 る予定です。しかしこれに参加できるよ
 うに心配してみてくれと私にお頼みにな
 るのはご遠慮下さい。人選はスペースブ
 ラザーズによつてなされるからです。彼
 らが地球人中から参加者を選ぶのですか
 ら、私はこの件で何も言う資格はありま
 せん。

指導者につくほうがよい

私は研究者から次のような質問を受け
 ました。
 「宇宙哲学の知識は書物によつて得られ
 るものなのか？」

答は「そのとおり」ですが、質問に直
 接答えて問題を討議できる指導者につく
 ほうが早く理解できます(注Ⅱただし宇
 宙哲学を正しく理解した優秀な指導者に

つくこと)。テキストによる場合は、研究
 する事柄の一部を読んだあとでその印象
 を書きとめるならば助けになりますし、
 更に日常生活でそれを応用するならば指
 導者につくことのできない人にとつては
 最上の学習方法となります。

いずれにしても、あなた方が計画して
 いるまじめな研究に熱心になろうとすれ
 ば、当然指導者につくことによつて急速
 に進歩します。俗人のすべては過失をお
 かしやすのですが、何よりもまず信念
 を持ち、指導者に信頼を寄せねばなりま
 せん。自己の探究から何かを得ようと思
 えば、過失であわてたりしてはいけませ
 ん。

探究者は進歩してゆくあいだにきつと
 多くの過失をおかすでしょう。自分を正
 しい姿勢に正さねばならないでしょうし、
 それはときとして不愉快かもしれない
 しかしこのことを理解した上で学ぼうと
 いう決意があるならば、それはゴールに
 到着する助けとなるでしょう。指導者と
 共に座すことがあらゆる探究者にとつて
 可能となることを私は願うものです。そ
 のとき本人は急速に成長するのです。

疑惑にひっかからないこと

長いあいだ私は教えてきましたが、そ
 のあいだ探究者たちの進歩してゆく実例
 を見ています。私の弟子たちはタイプラ
 イターの操作やその他の(秘書としての)
 仕事をやってきました。彼らは私の留守
 中にも仕事が進んでいく理解力を身につ
 けていきました。しかし重大な時機が来て、

彼らが以前に持っていた信頼と信念にか
 わつて疑惑が忍び寄ってきました。これ
 が起こったとき、状況の進展について何
 もわかつていない外部の(反対)グルー
 プから情報が探し求められて混乱が発生
 しました。

こんな場合、探求者は通常それまで得
 ていたすべてのものを失います。そして
 本人は日常生活のありきたりの混乱の中
 へ退却してしまいます。おそらく本人は
 二度と同じ好機を得ることはないでしょ
 う。(地球では)環境が人間の主人とな
 っているからです。

もし統者が「生命の科学」講座にせよ
 直接にせよ、この深遠な探究を行おうと
 決意したならば、何が起ころうと問題に
 せずにゴールにむかってタマを撃ちまく
 る決心が必要ですよ(注Ⅲこれは、やみく
 もに自己中心性をなくせというのではな
 く「アダムスキーはインチキだ」という
 怪しげな声に耳を傾けるなどという意味)。
 そして生命の素晴らしい奥義について何
 も知らない他人の意見に耳を傾けないこ
 とです(注Ⅳ奥義はオウギと読む)。

もしどうしてもこれを行うことができ
 ないならば、あなたは現状に留まるのが
 よいでしょう。この(断固たる決意を持
 った)態度が保てないならば、あなたは
 混乱の生命以外の何物をも得ないでしょ
 う。これまでに与えられたいかなる教え
 とも異なるこの新しい深遠な探究を行う
 場合は特にそうです。(完)

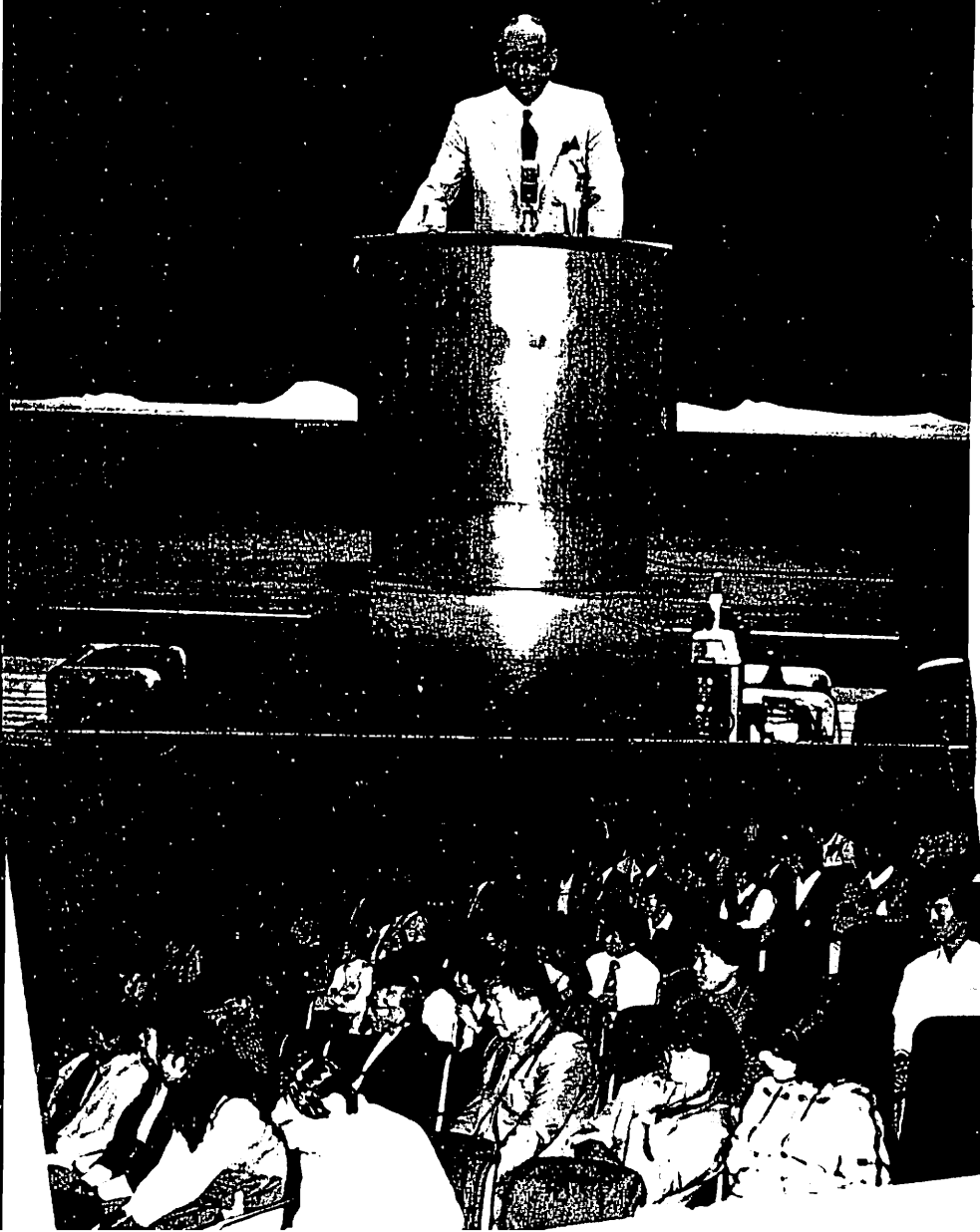
(文中ゴシック体は編者の指定による)



1981年度

日本GAP総会

IGAP-JAPAN GENERAL ASSEMBLY 1981
THE SCIENCE & COSMIC PHILOSOPHY OF GEORGE ADAMSKI



盛況！^{81年度}日本GAP総会

●またも会場付近上空にUFOが出現

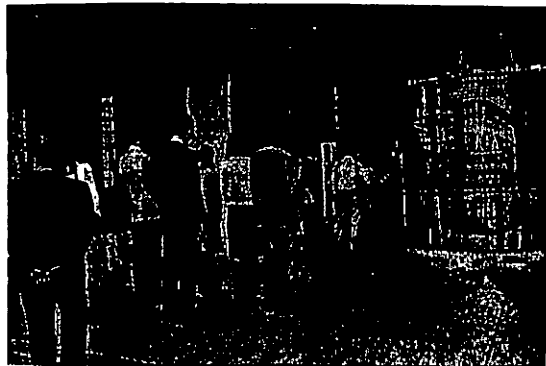
撮影に成功！

総会に出席して

斎藤 泰文

二日続いたドシャ降りの大雨がウソのようにカラリと晴れ上がり、初秋のさわやかな風がこちよい十月十日、恒例の日本GAP総会が開かれた。総会の日には円盤が見られることが多いので今年も愛用のニコンの双眼鏡とカメラをブラ下

●会場ヤクルトホール入口



げて名古屋を立ち、一路新幹線で新橋のヤクルトホールへ向かった。

会場に到着したときには、すでに札幌の伊藤氏の講演がはじまっていた。私は前の方に腰をおろし、ぐるりと会場を見廻す。各地方大会で知りあつたなつかしいメンバーの中に全く知らない顔も数多く総会ならではの独特なユニバーサルな雰囲気がある。伊藤氏は「鑑鏡」という特殊な仕事をおして得られた体験をシアに展開されていた。ときには目をそむけたくなるような現場にも立ち会い、その仕事を遂行することが「目」、「耳」

「鼻」のマインドのコントロールにつながつたという話は貴重である。また、動物の超感覚的知覚力について鋭くメスを入れ、人間にもそういう力のあることを自身の地震予知体験を例に説明されたが、共感を覚えた人も数多いにちがいない。

二番目の講演は前山形支部代表で現在は東京で活躍中の山口氏。氏は氏自らの今までのGAP活動全般をふりかえり、「果たして自分は正しくエゴをコントロールしてきたのか? いつわりのマインドにふりまわされはしなかったのか?」と厳しく反省し、改めて全面的に自己を洗い直そうという気になったとの最近の心境を巧みなユーモアをまじえて力強く話された。なかでもエゴの習慣細胞を「タロー」と名付けて客観的にエゴを見つめる訓練をしたという話は一つの素晴らしい知恵だと思ふ。

三番目は名古屋支部代表の武田氏。氏は前の山口氏とはガラリと雰囲気を変えて、アダムスキー哲学は「ことば」によ

る知識で終わってはならず、あくまで日常の体験を通して学びとるものであるとやさしく説明した。特に氏はもつと柔軟になろうと強調していたが、このことこそ最も我々に必要なことなのではないかと思つた。

午前中最後の講演は新潟支部代表の足立氏。氏は仕事上でのさまざまな辛い体験を話し、どんなイヤな仕事でも体当たりでぶつかれば何らかの活路が開かれる、そしてその経験は強い信念となつてゆくと説明し、実社会で何か役に立つことをすることの重要さを強調した。ともすれば逃避したくなり、毎晩酒にひたつてい

る自分が恥ずかしい。午後の講演は大阪支部代表の山田宏三郎氏からはじまった。氏はGAPの現状を全く別の角度から光を当て、いわゆる世に云う「慈善活動」の姿を例に鋭くGAPの存在価値について分析し、慈善活動なるものもほとんどは「奉仕的」な動機から行われるものであるが、より大きな目で見ればその活動には少なからず「暗示的行為」が含まれているものであると説明した。これは我々GAPを知る者にとつて素晴らしい警鐘で、自信を持つと共に宇宙哲学の真の意味について深く考えさせられた。

当日の講演のしめくりは久保田会長で、会長は大団がアダムスキーの体験を事実だと知りつつも公表できない複雑な実情を説明しながら、宇宙哲学の実践こそはどこでも誰はばかるとなく実行できる唯一のものであると力説した。そして会長は、最近体験された予知夢の話を

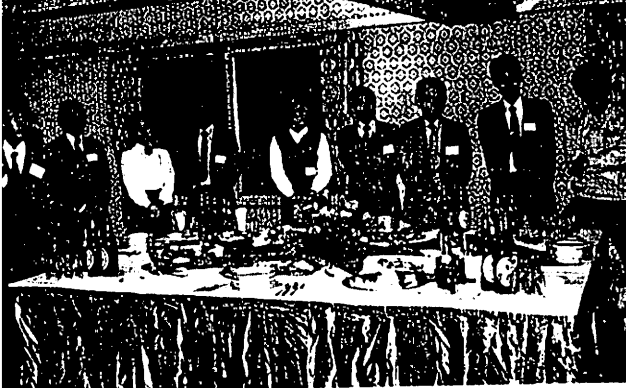
例に、誰でもが奇跡を起こす人間になれるのだと強調し聴衆を大いに勇気づけた。また会長は世の中のありとあらゆるもので人間に不必要なものはない、犯罪者やガン細胞でさえ、ある意味では人間に役立っている、と一見耳を疑うような話をされたが、この話は宇宙における活動を全包括的に理解するうえで大いに役立つのではないかと思つた。

今年の総会の最後を飾るプログラムはSF映画きつての傑作「二〇〇一年宇宙の旅」。この映画を見て多くの人が「転生」あるいは科学技術のゆくすえと人間の存在について深く考えさせられたにちがいない。

総会終了後、別の会場で恒例の大パーティーが開催されたが、聞くところでは会場の東京駅「精養軒」へ行く途中の新橋駅付近で円盤が出現し数名の人が目撃し、撮影されたという。また東京駅付近でも松山の伊藤氏がそれらしい物体を発見し、一時大さわぎとなつた。このときは近くに私もいて空を見たが確認することはできなかった。

パーティーでは北海道の石川氏のすばらしい歌や、鈴木一宏氏のケーナの演奏、そして楽しい福引き等で愉快な夜を満喫することができた。

今年も、講演にしても空理空論に遊ぶことなく、実生活、実社会の現状に対して真剣に取り組んでかち得たという体験談がほとんどで、ほんとうに聞きごたえのあるものばかりであった。会長ならびに講演された方々、そして参加された全員の皆さんには心から感謝したい。

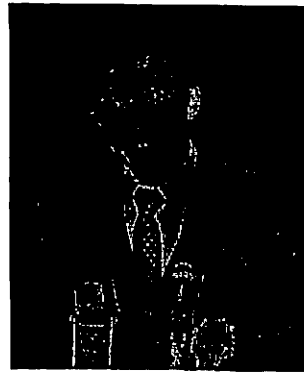


熱き友情と歡喜に
包まれた大夕食会！
楽しくてしようかない顔・顔……



私にとつての宇宙哲学

〈札幌支部代表〉 伊藤 重信



感情を起こさせたのではないかと思ひます。

宇宙哲学との巡り合い

それでは今日は「私にとつての宇宙哲学」という題で、若干、私の意見を述べさせていただきますのですけれども、私もこのような世界に入つていろいろ体験したつもりですが、まだ経験不足で社会的にも体験を踏んでおりませんので、その点を考慮してお聞き下さい。多くの人の話とか体験談を聞くのはひじょうに有意義なことだし、私もこの後に続いて話される方々のお話を聞くのをとても楽しみにしております。

私はこの二十五年間、二十五年間といふのは年齢が二十五歳でありまして、もつと宇宙的に育んでいます、太陽の回りをもう二十五回まわつていて、そのような感じなのですが、この中で一番重要だつた体験というのは宇宙哲学を知つたということですね。アダムスキー氏の宇宙哲学に接することができたことです。この深遠な哲学に最初に自分が出会つたのは今から四年位前だつたと記憶しています。この四年間に自分自身は、ある意味では大きな変化を遂げたのではないかと思ひます。ようやく、人生のスタートというのでしようか、自分の「さあ、やつて行く」という生きる道を見つけて、今、そのスタート台に立つていているという、何かそのような気持ちがあるわけなのですけれども、ただ、だからと言つて何でもすぐ出来るかというところではなくて、そ

れは赤ん坊が、ちようど這つていた赤ん坊がようやく二本の足でフラフラしながらも立ち上がる、まさに立ち上がる時期に来ているのではないかと思ひます。立ち上がつて、これから歩くという重大な作業があるわけで、それは、あの「生命の科学」にも書かれています。が、一歩一歩足を交互に動かすという体験がやがては自然に歩けるようになると同時に、赤ん坊自身も成長していくのではないかと思ひます。というのも、私も考えがふらつく方でありまして、いろいろかじつてみたものですから、その結果、宇宙哲学というものも素晴らしいさをようやく理解したしだいなのですが宇宙哲学を知る以前の人生において体験したことも、それはそれなりに、ひじょうに重要なことではなかつたかと思ひます。というのは宇宙哲学を学ぶ時に自分のやつて来た行為といふものが、どういふ風に、どういふ状態で行われて来たか、という新しい目で認識することが出来るからではないかと思ひます。生まれながらにして宇宙哲学を理解して成長していく人は、この地球人ではほとんどいないのではないかと思ひます。むしろ、苦しい体験を経てある時期に宇宙哲学というものを知らる方が人生の中においては素晴らしいことではないかと思ひます。従つて私も、いつも「なぜ早く気がつかなかつたのだろう」「なぜもうちよつと早くアダムスキー氏の体験に触れなかつたのだろう」と思つたりもするのですが、考えてみれば宇宙哲学といふものは、その人が、その人にとつてちようど良い時期に自然に理解さ

皆さんこんにちは。ただ今ご紹介にあずかりました札幌支部の伊藤です。本日はこの記念すべき日本GAP総会に参加ができてとても嬉しい気持ちで一杯です。それと同時に私のような未熟者が、こうして高い所上がつて、皆さんの前でお話し出来るというだいいそれたことがはかみません。現在ひじょうに緊張しております。トップバッターというのはひじょうに使命を感じるわけですが、これと同時に責任も感じるわけですが、これから何名かの方が講演されますので、私は、今日は皆さんを大いに笑わせてリラックスした雰囲気を作っていきたいと思ひます。従つて皆さんも緊張せずにリラックスしたムードでお聞き願えれば幸いかと存じます。

いただきました。そのどれもが盛大で高次な波動に包まれている、まさにフィーリングに包まれている素晴らしい大会そのものなのですけれど特に印象に残つてくる大会が、そうですね、昭和五十三年のステイブ・ホワイティング氏が来日した時の総会だつたのです。この時の総会の模様は今でもハッキリと覚えています。講演の内容は皆さんもニュースレターなどを読んでご存じかと思ひます。その講演の内容もさることながら、彼の人物といふのですかね、これは我々会員だけではなく彼に接する、おそらく誰もが彼に対して特殊な感情を持つのではないかと思ひます。特殊な感情と言ひましてもそれはひじょうに親密な感情ですが、一言で言えば「初めて会つたにもかかわらず以前から親しみ深く友達として付き合つていた」そのような感じですが、要するに初対面にもかかわらず、手を取り合つて「やあ」と、こうして肩をたたきたいといふのですかね、そのような感じを僕はひじょうに受けたわけですね。これは前世で一緒に活動していたとか、兄弟だつたとかそういうものではなくて、それよりもやはりホワイティング氏から出る万人に対する理解力つて言うのですかね、そのようなひじょうに高次なフィーリングが、僕を含めて多くの人にそのような

私は過去三回ほど総会に参加させてい

れるような、そのような生き方ではないかと思ひます。他の人は「それはカルマだよ」と言うかも知れません。それは、自分自身ではどう判断してよいか、ちよつとわかりません。

テレバシーの実例

さて、私ごとでひじょうに恐縮なのですが、若干の面白い出来事、この四年間に自分自身に起こった出来事をちよつとお話したいのですが、町を歩いていると「誰かに会える」というひじょうにオーソドックスなフィーリングがわき起ります。これは皆さんの中にもしばしば体験されると思ふのです。そして、更にしばらく歩いて行きますと、前方から「やめ」と友人が来るわけで「あつ、やつぱり来たのか」と。こういった時は、一瞬不思議な感じとともに、嬉しさというのでしようか「やつぱりいたのか」という感じを持つわけなのですけども、これは俗に言うところの「うわさをすれば影がさす」という態でも表わされているように、日常的かつ一般的なテレバシー現象ではないかと思ひます。難しい説明はあえてつける必要はないと思ひます。これは、むしろ、体験で皆さんはよくわかっています。ただ、私の場合は、ある一時期そういうフィーリングとともに、体全体で受けたことがあるのです。これはどういふことかという、町を歩いているわけなんですけれども、例えば、右とか左とか引っぱられる感じがするのです。これはもう、

引っぱられるという表現が一番びつたりするのです。それで、私は「変だな」と思ひながらもそちらの方へ歩いていくのですよ。そうしてしばらくすると、向こうからやつぱり友人が出て来ます。そこから聞くと、やはりその友人も「誰かに会えるような気がしてたんだ」という様に共通の体験を持っているようです。ですから、これは一方が誰かに会えるというフィーリングを持てば、これは何かこう、磁石のように引きつけ合うのではないかと感じます。そのような体験は皆さんもよくあると思ふのでご理解いただけると思ふのです。

それからそうすね、もう一つ変わった体験をお話しますと夜、寝ているのですが、例えば、三時でも二時でもいいのですが急に目が覚めることがあります。普通、何かのはずみに夢を見たとか、そのようなことで目を覚ます時は本人もひじょうに寝ぼけているわけなのですよ。心というものは十分に機能を果たさないような状態であるわけなのですがその時です。目が覚めた後やしばらくして、ほんの二、三秒のことなんですけども、地震が来るわけなのです。グラグラと。皆さんもご存じかと思ひますけど、北海道というところは比較的地震が多い所で、現在も有珠山です。あの辺がひじょうに活動を続けてますし、従って、その横にある洞爺湖なんかも、以前ホテルに泊ったのですが、一日に一回とか二回は揺れている位、それ程地震の多い所なのです。そうあつてすね、このように夜中に目を覚まして、その直後に地震が起こると、これはもうほんの偶然では片付けられない問題ではないかと思ひます。ちよつとお尋ねしますが、皆さんの中でこの様に夜寝ていまして、地震が起こったとして、その直前に目を覚まされた経験のある方がいらつしやいますたら正直に手を上げていただきたいのですけども。(何人かの手が上がる)安心しました。私だけではなかつたのです。今、手を上げた方は、これから地球上でいろいろ大変なことが起こるのではないかと思ひますけれども、若干、生き伸びられる可能性がある方ではないかと思ひます。まあ、それは話は別なのですけども、寝ている自分、いわゆる心が、停止している肉体をも目覚めさせるという一つの大きな力ですが、これがやはり肉体の中に宿っているのではないかと、そのようなことをその時に考えたわけなんです。それは、自然界にはよく動物などの状態、地震が起こる時に動物がその場から逃げ出すといった事例がよくわかりますし、アダムスキー氏も述べておられますので、やはり自分なりにあるのではないかと強く感じていたわけなんです。

先日すね、八月に北海道は五百年に一度という記録的な豪雨に会いまして、札幌も含めて近郊の都市はひじょうに水びたしになりました。札幌から岩見沢に行く途中の町なんかでは家が、一階の天井のすぐ下まで水がつかつてしまつたという災害があつたのですけども、その時に農家が飼つていた動物、鶏とかそのような生き物が、雨の降る二、三日前から急に騒ぎ出すといった話も聞いておりま

UFOをキャッチ!

このように人と自然現象に対して、人間の意識というものはすごく敏感に反応する場合があり、心の機能をはるかに通り越えて人間に事実を知らせる動きがあるのではないかと痛烈に思ふのですが、その他には、アダムスキー氏といえればUFO問題、宇宙人間問題が当然出てくるわけなのです。で、私もそもそも宇宙哲学に触れたきっかけというのがUFOの目撃ということなので、そういったことを一応私なりに研究しているのですが、私も夜空を見るのが嫌いな方じゃない、すくなく何かを感じますので、観測をかねて空を見るわけなんですけども、三年位前、ひんばんに観測していた頃のことを思い出すと確かに何か未知の物体というものが見えるわけなのです。ある時、私はカメラを持っていますので、写真を撮るの趣味をやっていますから「これは写真を撮った方がよいのではないか」と、カメラをかついで観測に行つたのです。ある日ある時、日時はちよつと忘れたのですが「今日はカメラはやめて8ミリカメラを持って行こう」というような気持ちになつたのです。それでおもむろに三脚に付けて、8ミリカメラは重たいものですから、事前に三脚にセットしておくわけなのです。そして、とことこ歩いて

行く。それでちょうど家の玄関を出る時に何か感じて来たのです。「あつ、今日は何か来るんじゃないかな」と「もう来るかもしれないな」と。で、そのような気持ちを持ちながら観測場所であるうちの近所の、すぐ歩いて一分位のところの小学校のグラウンドに行つたんです。それで、何気なくです、こう感じて、これは何気なくというよりも、もう顔がこの様に引つぱられたかなという感じなのです。もつと具体的に言いますと金星みたいにちように色が黄色い感じの光体がゆっくり飛んでいるのです。雰囲気としてはひじょうに低い所を飛んでいるのではないかと、今この様にひじょうに冷静に話していられますけれども、その時は見た瞬間、とても興奮しまして驚きました。その時、8ミリカメラを持っていたのを思い出しまして、下にセットしまして、8ミリを光体に向けて撮り始めたのです。そのような時は、人間、心が騒いでいるというのか、もう落ち着け、落ち着けといつても落ち着かないというのか、それでも何とかフィルムに納めることが出来ました、その光体の正体が何であつたかというのはいくわかりませんが、確かにそのようなものが現れる以前に、予感として持つたのだなど、後々ひじょうに記憶に残つたのです。この様な体験、UFOにまつわる体験は人によつていろいろあるし、ない方もいらつしやるし、私の場合は毎日のように観測してましたので、しつこい位に上の方でもあき果ててちよつとは見せてやろうかと、そんな気持ちになつたのではないかと、まあ、

それは冗談なんですけども。やはり忍耐強く根気よく、空を見つめていれば何かしら、そのような物体は現れるようですね。UFOの活動ですが、むしろ、そのようなUFOの動きに一般の方はほとんど気が付かないのです。自分のことが大切で自分のその日の生活というものにとられていきますのでおそらく空を見る余裕がほとんどないのではないかと思ひます。だからUFOというものは意外と空を注意深く観察していますと、必ず現れてくるのではないかと、ジョージ・アダムスキー氏も、コンタクトを始める前は観測を続けていたということ、やはりそのような観測するということもその人なりに重要なことではないかと思ひます。ただ、今まで話した体験談というのは、あまり日常生活に役に立つといえないのです。要するにUFOを見たからといつて生活が楽になるとか人間性が向上するとか、そのようなものではないと思ひます。

四官のコントロール

私の場合、仕事ですが、警察関係です。北海道警察本部というところにおりまして、東京でいえば警視庁に相当するひじょうにお固い役職についているわけなのです。私は警察官ではありませんので、皆さんを逮捕するという権限は全くなく、ましてやGAPの会員の皆さんにそのような犯罪を犯すような人はみじんもないと思ひますのでひじょうに安心してお話できるのです。その中で鑑識係と

いうことをやっています。これはテレビの刑事ものなんかでありますよね。事件現場に行つて、指紋を取つたり写真を撮つたりしている場面が。私はそのような関係の仕事で特に写真をやらせてもらっているのですが、仕事の中でいろいろと自分の体験にプラスになるレッスンを含まれていきます。当然、事件の現場ですから目をおおいたくなるような惨状です。一般の人が見れば、それこそ卒倒するような現場にも出なければならぬのです。最初はいやでいやで仕方がなかつたのですが、アダムスキー氏の「宇宙哲学」や「生命の科学」にも書いてあるのですが人間の心というものは、四つの感覚器官です。これによつてひじょうにエゴの状態を作り出しているわけです。例えば人が死んでいるのを見たとき、これは「気持が悪い」です。それは目が勝手にそのような気持の悪い不快感をもよおしていると思ふのです。それで、そうすると、まず目を見たものを正しく現実をつかむような見方をしなければならぬと思ひます。次に私は解剖なんかの写真もよく撮りに行きます。解剖といつても生きた人ではなくて死んだ人のです。死んだ人の解剖と聞いておそらく皆さんは「わあ、気持ち悪いなあ」という感じを受けた人もいるでしょう。でも、今その感じを受けたのは耳がそのように判断したからであつて、耳が自分に対して不快感を作り出した結果だと思ふのです。それは、おそらくわかつていただけだと思うのです。目で見、耳で聞いてようやく慣れたとしても、もう一つ難

関があるのです。それは何かというところには奥いんです。確かに肉体が分解していく時には奥いというものを伴います。これは化学反応ですから、化学変化だといつてしまえばそうなんです。それを納得するまで鼻がついていかないのですよね。もう気分が悪くなります。でもそういった過程を踏んでいきますと、そのようなものにとられなくなり、自分自身なりの仕事に専念できます。これはやはり「生命の科学」とか「宇宙哲学」に書いてあります心の法則ですね。あるいは心の在り方というものが詳細に説明してありますから、その結果、自分なりに心コントロール出来たのではないかと思ひます。

実践が最重要

仕事上いろいろな体験、苦しい事やつらい事がありましたけれど、宇宙哲学のおかげで今は楽しく仕事をやらせてもらっています。仕事がその人にとって一番重要ではなくて、人生にとって何が大切かということ、それが一番重要なことではないかと思ひます。私の場合はやはり宇宙哲学の実践です。その実践というのがこの一生を通じて一番普遍的なものではないかと思つてるわけなのです。これは体験の積み重ねということから身を持って感じていることなのです。理論よりも実践、理論よりも行動というのがひじょうに宇宙的ではないかという気がするので、従つて今日この場でお話することは私の若干の体験談に留まりますが、

皆様こんにちは。山口でございます。きょうは私のような者が、全国の大勢の方々の前でお話させて頂く機会をいただき、とても感謝しています。またこのよ



〈元山形支部代表〉

山口 緑

惑星地球におけるレッスン

理論的なこと、概念的なこと、さらに詳しいことは「生命の科学」という素晴らしい本に書かれています。これは皆さんが自分で研究し、自分で実践なさるの一番その人の道になるのではないかと思えます。従って、今日私が話したことは忘れても構いません。ニューズレターで一応記録が残りますので、今日他の人の講演もありますのでちよつと心の片隅に留めておくぐらいで結構だと思います。それよりもこうして皆さんと一堂にお集まりできたという方がひじょうに有意義ではなかったかと思うのです。

最後に、私がこうして自分の考えを述べ

ることができずとも、ひとえに偉大なジョージ・アダムスキー氏とその哲学を日本中に拡めて下さいました久保田八郎会長の活躍、健闘によるものと思っております。私たちも一層これを機会に、今日の総会をきっかけとして頑張らなければならぬと思えますので、どうぞ皆さんも頑張つて人生を楽しく有意義に生きて行つてほしいと思えます。人生は一回きりではなくて永遠に続くと思えます。本日この総会をきっかけとして日本GAPの一層の発展に結び付くことをひじょうに期待しております。どうもご静聴ありがとうございます。

うにGAPを通して皆様にお会いできましたことを、本当に嬉しく思っています。

自分はエゴ人間だった

さて、私は高校二年の時にアダムスキー哲学に触れました。そしてその真実性とあらゆる現実を超越したアダムスキーの体験に感動し、それ以来きょうに至る八年間、その深遠な哲学と共に歩んでまいりました。一日たりとアダムスキーのことを忘れたり、GAPのことを忘れたことがなかったと思えます。そしてアダムスキー哲学から多くのことを学び、自分の片寄った嫌な性格や欠点を少な

らず克服してきたと思っております。そしてまた、次第に皆さんとお知り合いになることができ、それとともに自分も大きく拡大されたような気がいたします。

そして今年、一大決心をし東京へ出てきました。GAP活動をもつと本格的にやろうと思つたからです。この東京においても人々との多くの出会いがあり、学習があり、さらに自分が大きな進歩を遂げることができたと思っております。そして自分はこれほどまでに順調な道を歩んできたんだなあ、と思つていました。

しかし、最近になって自分自身をもう一度振り返つてみました。私は裸になつて自問してみました。「山口緑よ、君はアダムスキー哲学を完全に理解しきつていのか。宇宙の意識と一体化したことがあるか。宇宙の意識とはどんなものであるかを明確に言えるか。エゴをコントロールしているか。他を裁いてはいないか。他に対して奉仕的精神を持つているか。」これらの自問ひとつひとつに對して、私ははつきりと「イエス」とは答えることはできませんでした。勿論、今も答えられません。

今まで八年間、自分ながら四苦八苦しながら一生懸命がんばつてきたつもりでした。山形にいる当時、月例会は一度も欠かさず出席していました。またGAPの催し物があれば、何はおいても積極的に参加してきました。アダムスキーの書物もいつも持ち歩いて、何度も何度も読み返し、ポロポロにしました。とにかく生活自体がGAPを中心に展開してきたのです。

でもそんなふうに熱心にやつてきたと自分で言つてはいますけれども、宇宙的にどの程度進歩して、魅力ある人間に変化しているか、と素直に自分の胸にきいてみれば、実にみじめな答えしか返ってきません。山口緑という人間はまだまだエゴに完全に支配された、ドン欲の強い、欠点だらけのつまらない人間です。いつも他人の視線を気にしたり、他人の噂話を好んだり、金銭への根強い執着に凝り固まったエゴ人間であることに気づいたのです。

安楽イスからの脱出

アダムスキー哲学を自分ではある程度理解し、生活の中に人一倍生かしていると思ひ込んでいました。そんな甘たれた自分でありながら、「自分は数少ないGAP会員の中の一メンバーである」とか、「一般人とは違うんだ」とか、「自分には特殊なカルマがあつて、GAPをやつていて、ブラザーズも必ず注目しているに違いない」、そういう魔法にでもかけられたような高慢な想念にずいぶん長い間とりつかれていました。私はずいぶんイイ子ぶつていました。GAPという安楽なゆりかごの中に身を横たえて、そこにとどまることで自分をごまかしていたのです。そして自分が宇宙的進化を遂げてしまつたかのごとき錯覚を起していました。GAPを一生懸命やつていけば、絶対悪いことにはならない。自分だけは絶対助かる、そういう迷信的な觀念とか形だけにとらわれていたと思うの

です。GAPというものが人を救うのではなく、GAPによってもたらされる宇宙の法則を、ひとりひとり自分自身が応用して初めて救われる、ということを利用してしまっていました。

こうしたすべての傾向は、自己保護と自身の安全、ブライド、欠点を他人に知られたくない、他人から注目されたい、愛されたい、という無意識ながらも、自己確立というエゴに他ならないということに気づき、愕然としてしまいました。こんなエゴの強い者にブラザーズが目するはずがありません。このブラザーズに対しても、あまりにも崇拜的になって自分の足元を見るのを忘れていたように思います。ブラザーズに対して、「憧れ」の領域を出ていなかったのだらうと思います。しかし、ブラザーズにしても私たち地球人と同じ人間です。同じレッスンを積みながら前進し続ける人間であると思います。

ゼロからの再出発

そんなわけで自分が全くどうしようもない人間だということに気づき、それじやもう最初から、全くのゼロからやり直そうと思いました。自分を支配しているあらゆるエゴを洗い流そうと思い、全く自分を徹底的に客観視しました。

まず、もつと自分という人間を知ろうと思いました。自分を知らずしては、今後どのようにしてエゴを抹殺すべきか、という作戦も立てられないわけです。そして片っぱしから手帳にエゴの想念を書

いてゆきました。自分を徹底的にさらけ出して、自分の醜い姿を鏡に映して直視するのです。それはあまりにも醜くて、片寄ったきたない自分なために、目をそむけたくなります。でもここで勇気を奮い起こして、カットと目を見開きます。

こうして自分という人間を観察してわかるのは、全く他人の眼を気にしたり、ゴソゴソ隠れたり、ちよつとしたことでドキドキしたり、イライラしたりする弱い性格です。他人からどう思われるだろうかと気にしてばかりいます。物質とか金銭に対する異常な執着、他人から注目されたい、目立ちたい、他人への非難。電車に乗ればいろいろな人とめぐり合います。眼はそのことをいちいち睨いて「あのタスキおやじ、席をひとりじめにしている。けしからんやつだ」とか、女性を見ては「なんてブスなんだらう」そんなふうに思ったりします。その他、人には口言できないようなことも心の中ではしょつちゆう思っています。そんなことにも気づかずに、「自分は調和のとれた人間なのだ」そんなふうに思い続けていました。

ずいぶんと自分のことを否定的に見て、深刻に考えていると思われるかもしれませんが、「もつと気楽に考えなさい」と言われるかもしれません。「人は一歩一歩ゆつくりと前進するものであり、誰にも多かれ少なかれの欠点はあるものだ」と言うかもしれません。「あせらないでやっつてゆきましょう」そのように考えられるかもしれない。しかし、あまりにも中途半端な、趣味的な考え方であったと

思うんです。このような構え方であらば長年宇宙哲学をやっているんだとか、そんなことを言っても本当の進歩は望めないと私は思います。勿論、これは私だけにあることではありません。皆さんは宇宙哲学を真剣に実践されています。

本気で自分自身を知り、エゴを克服しようとしないう限り、宇宙的な生き方は望めるものではないと思います。神の御子となるために今までの習慣的なパターンを完全に変える必要が起こってくると思えます。こんなことは今までに何度も聞かされてきたことですが、私にとってはそれは言葉だけであり、観念的なものに過ぎなかつたと思うのです。理想がいかに輝かしく、美しく、高いものであつても、その土台となる私たち自身の構えがしつかりしていない限り、いくら多くの経験を積もうとも本当の真理とか幸福を手にすることはできないのではないのでしょうか。

薄汚いダイヤを磨き続ける

「人間は未加工のダイヤのようなものである」と『生命の科学』に述べてあります。そして「自己の純粋さを見出すために削り取らねばならないゴツゴツした多くのこぼこぼこがあり、このでこぼこを取り除くたびに、削り取るたびに何らかの苦痛を伴う」とも書かれてあります。

私などはダイヤどころか、でこぼこだらけの薄汚い、どうしようもない石ころにすぎません。捨てられこそすれ、誰かに拾われる魅力も美しさも持ち合わせては

いません。

でもこんなつまらない石ころの中にも、全く有難いことに、さん然と輝くダイヤ、すなわち「宇宙の意識」が宿っていて、私を生かし続けてくれています。それどころか、いくら自分ががままを言つたり、ダダをこねても、輝やかなばかりの愛と理解を示して、静かに静かに見つめちゃんと導いてくれています。このことだけでも本当は有難く、感謝すべきことであるのに、私の幼いマインドは不平や不満ばかりを言つて、自分を優位に保つことだけに執着していました。

このように輝けるダイヤ、「宇宙の意識」は私たちの内部に確実に存在していますが、そのダイヤを堅く包み込んでいます。こぼこ、すなわちエゴの心によって私たちは本当の自分の姿を隠したままです。そこでこぼこは各人にとつて、形や色、大きさはさまざまでしょうけれども、それを削り取らない限り、光、すなわち生命の伊吹を感じることはできないでしょう。そこでこぼこを落とすとしてゆくことは血のじむような苦痛を伴うでしょうが、このことを全く自分ひとりですつと大きな障害にぶち当たりながらやっつてゆかなくてはなりません。それ以外に方法はなと思います。他人はやつてくれませんが、そのたびに痛み、悲しみ、苦しみ、恥じらい、絶望感、さまざまな試練が待ち受けています。

でも、このことでさえもきつと内部に宿る「宇宙の意識」の愛ある導きなのでしよう。これら多くの試練のときこそが宇宙の英知、宇宙の秩序に目覚めるチャ

ンスであり、意識が各自に与えてくれる
プレセントなのではないでしょうか。

でも、心はいつもそうした愛ある警告
を無視してタラダラした習慣的な生活の
中にうもれ、最も安易な道を選ぶうとし
てきました。そして今まで何度も何度も
逃げてきました。それでも内部の意識は
勇気づけてくれます。

「さあ、勇気を出して立ち向かいなさい。」

“宇宙の意識”の完全な導き

私は大学時代教育学部にいました。四
年生のときに小学校の教師になろうと思
い、三週間の教育実習にでかけました。
その時は小学校四年生のひとクラスを受
け持ちましたが、子どもたちと過ごした
三週間はとても楽しいものでした。子ど
もたちは純粋そのもので、私は深い感銘
を受けました。そして担任の先生に、「自
分は必ず小学校の教師になります。採用
試験が終わったら必ず報告にきます」と
約束して、その実習を終えました。

ところが、私は不幸にもその採用試験
に失敗してしまいました。絶望のどん底
に陥りました。そのことをその実習校に
行って報告するのがとてもいやで、その
ことでずいぶん苦しみ、心の中で激しい
葛藤が続きました。しかし、内部にある
意識の声がはっきり聞こえてきました。
「行きなさい。行って正直に失敗したこ
とを報告することです。それがあなたの
エゴを支配する最もよいチャンスなん
ですよ」

でも私はその意識の指令にそむいてし

まいりました。心は自分の失敗を他人に知
られたくはなかったのです。それからと
いうもの長い苦悩の日々が続きまし
た。一年間をそこで過ごし、そして東京
に出ようと思い始めた頃から、だんだん
教師になろうという意志が薄れかけてい
ました。ところがどうでしょうか。毎晩
のように、実習校の校長先生が夢の中
に出てきては叱られたり、自分が教師にな
れなくて指を食わえている夢をたて続け
に見るのです。それはとても苦しいこと
でしたが、同時に次のことに気づいたの
です。自分はやはり教師になりたいんだ。
意識がそう導いてくれているんだ――。

自分のエゴが意識の指示にそむいても、
尚も意識は私を見守ってくれて導こうと
していたのだということにハッと気づき
ました。そういうわけで、今年も教師に
なろうとチャレンジしました。

意識へのざんげと約束

ある日、私の不完全さやわがまま、貪
欲、そうしたエゴの強さを認識した日の
夜、ノートに次のように記しました。そ
して意識に謝罪したのです。

「いつも宇宙の意識は私を見守って下さ
るんですね。何とかして私のわからずや
の心にあなただけを気づかせようとして、生
活のひとコマひとコマに愛ある環境を準
備してくれたら、いろんな人々との出会
いをつくって下さるんですね。そんなこ
とも知らずに私の心は勝手に非難したり、
憎んだり、欺いてばかりいました。その

ひとつひとつを振り返ればきりがありま
せん。何と云ってあなたにお詫びした
よいかわかりません。あなたは必要なも
のすべてを準備して下さいます。それを
勝手に好き嫌いで下さないようにしな
いままです。こんなどうしようもない私
ですが、どうか導いて下さい。少しづつ
ですがあなたに真剣に耳を傾けます。い
ろんなことを教えて下さい。私はあなた
と共に歩んでいきます。」

こんなにも真剣な反省も、悔悔もつか
の間、根強いエゴ、習慣細胞群団は容赦
なく私のマインドを支配し、弱まるどこ
ろかますます支配圏を拡大したり、勢力
を強固にして襲いかかってきます。光の
子と闇の子が激しい大戦争を起こして、
メチャメチャになります。忍耐も限界
に達しますと全く自暴自棄の哀れな自分
しか残りません。いくらエゴ群団を抹殺
しようとしても、必ず挽回してきます。
そのたびに自信を喪失し、また暗い闇の
中へ葬り去られてしまいます。この總會
では皆様のお陰で、とても高揚すること
ができましたが、またあさってにでもな
ればタダの石ころに戻ってしまうでしょ
う。でもそんな私でも決して諦めません。
何度エゴ群団に打ちのめされても、ノッ
クアウトパンチをくらっても、起き上が
って私のダイヤを磨こうと思います。

心に「タロウ」と命名

私はひとつのアイデアを考えつきまし
た。自分のマインドの傾向を知るために
客観的に自分自身を見つめる、というこ

とは今まで何度もよく耳にしています。
そこで私は心に名まえをつけてみたので
す。「タロウ」という名まえです。何と
なくユーモラスで親しみが持てると思
います。いくらいやな自分の心でも何とな
く友達になったような気がしてきます。
そうすると想念観察なども凝らずに楽し
くやれるような気がするのです。悪い考
えが起これば「タロウ、またそんなつま
らない考えを起こしたね。もつと愉快で
楽しい考えをもとうじゃないか」と話し
かけます。

このようにして、できるだけ外から山
口縁という人間を客観的に、クールに見
つめようと思いました。そうすれば心で
あるタロウの起こす分裂感情や怒りの想
念などにも影響されずにすむんじゃない
かと思えますし、また自分自身を知るた
めの絶好のチャンスにもなるだろうと考
えたのです。そしてタロウと納得のゆく
まで語り合い、なぜその時そのような想
念を起こしたかを問い直し、二度とそう
思わないという誓いを立てさせました。
宇宙の意識と握手をさせてやるのです。
おもしろい方法だとは思いませんか。で
もこれはまだ成功していません。目下実
験中ですが、しかしきつと成功させてみ
たいと思います。

地球でのレッスンはエゴの撲滅

このようにして、まず自分の心でこ
がどんなに大きく、お格好であるかを知
り、それを少しづつ削り落としてゆくこ
とによって、少しずつ内部の光が見え始

めてくるのではないでしょうか。つまり意識からの働きがきこえてくるようになるのだと思います。アダムスキー氏の「テレバシー」の本の中に、(P149-150)「ひとたび人間が自己の生命の目的は個人的、攻勢的な活動を抑制することにあると知るならば、人間はあらゆる宇宙の印象の受信者になるでしょう」とあります。

すなわち、こうしてエゴを少しづつ克服してゆくことによつて、次第に宇宙的性質を帯びた印象が少しずつ流れてくるようになる、ということだと思います。この道は容易ではなく、孤独で寂しく、暗い道でしょう。私はその薄暗い道に迷つていて、全く光も差さないところで右往左往しています。でも私たちには幸運にもアダムスキー哲学という、とてつもなく輝かしい道しるべがあります。その道しるべをたよりに真つすぐ歩んでいきましょう。

そして、ついにはその時黒の彼方に一条のほのかな光一宇宙の意識の光が差し込むのを見つめるでしょう。そしてまたそこに向かつてまっしぐらに進んでいきます。そしてその光こそ、真のテレバシーではないでしょうか。愛、親切、理解、謙虚、その他あらゆる宇宙的印象はこうしてやってくるのではないのでしょうか。この一条の光こそが、自然の調和あるメッセージであり、万物が囁き合っている最も美しいテレバシーなのでしょう。そしてますます磨きをかけられたダイヤはついに無敵の、まばゆいばかりのあらゆる光を放つとき、本当に「私と父とは一体だ」と実感できるのだと思います。

そこまで到達するには、気の遠くなるほど長く険しい苦難に溢れた道でしょうが、私はタロウと宇宙の意識とともに歩んでゆこうと決意しています。

結局、私たちの仕事はただひとつ、エゴを撲滅させること、それに尽きると思っています。

アダムスキー氏の論文の中の「エゴを

アダムスキー問題を研究して

(名古屋支部代表) 武田充弘



皆様こんにちは、ただ今ご紹介して頂きました武田です。本日はご来場頂きましてありがとうございます。皆様の為、最善を尽くそうと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

強固な土台を築こう

私が久保田先生から講演の依頼を受けました頃と比べますと、現在はアダムス

支配する道」の中に、感動的な一節があります。

「エゴを支配する道をゆくのは容易ではありません。しかしこれはたとえようもなく美しいものなのです——」

みなさん、勇気をもって前進してゆきましょう。ありがとうございます。

キー哲学に対する考え方が随分変わりました。なぜかと申しますと、講演の為に私の生の姿を見つめようと、理解度は上辺だけのものだったことが分かったからです。自分で思い込んでいた虚像の世界が崩れてゆきました。未熟さをカバーする為にも素直になろうと思いました。このようにして、今までの過程について考える良き機会を持ちました。迷ったり、自信を失ったりもしました。その中で、ふと「焦る必要はないんだ。一つずつ洗い直し磨き上げていこう」と思いたちました。毎日がさまざま欲望で過ぎている中で、心が問題にしていけないようなささやかな事でも、理想に向けて変化させれば大きな価値があるのではないかと思いました。私にとりましては何が宇宙的な印象か判断することは困難です。正しいと思つたことでも、ときとして思いがけない落とし穴があつたりします。ただ一つ基準にできますことは、宇宙的な行

為は、普遍的であり、誰にとつても真実な事ではないかと思ひます。

私は当初、「テンバシー」「生命の科学」などアダムスキー問題の毒物を夢中で読みました。非常に感動しましてこれが私の全てであるように思ひました。ニューズレターの古い号の記事を集めたりしまして、知識を増やしてゆきました。アダムスキーばかりでなく、過去の偉大な人々、例えば、イエス、ブッダ、プラトン、老子、アカルトなど調べ始めました。結局、誰もが根本的に同じことを言っているのであり、今の時代にはアダムスキー哲学が一番マッチしてました。

「意識とは何だろうか?」「一体化とは何を意味するのだろうか?」という疑問が起こつて来ました。しかし、それらは言葉によつてよりも、体験によつての方がはるかに理解しやすいと思います。生き方によつて価値感を築きあげたのではなく、アダムスキー哲学を中心にしませんでした知識によつて作りあげた価値感です。で、高度ではあります土台が不十分でした。ですから、アダムスキー哲学は現実的でないから価値がないという錯覚も起こる始末です。

積極的な実践に踏み切る

私の友人が良き解答を私に得てくれました。彼は熱心なGAP会員であり積極的な活動家でした。資料も随分ありましたし、アダムスキーについて詳しく知っていました。彼の環境は決して恵まれていませんでした。貧しく育つたせい

社会の裏側も知っていました。これらのバックボーンの為、彼には興味深い人間性がありました。また、さまざまな習慣を持っていました。その中の一つに、母親に対して「お母さん、ありがとう」と言ったことがあります。通常は、「おい」で済ませていたのです。彼の心にとつては、この事は当たり前でした。しかし、彼は、「生命の科学」の知識を生かすことによつて、この習慣を除くことができることに気づいたのです。私は自分のレッスンではどうしても理解できなかったことを彼から学びました。共鳴の法則はあらゆる面に作用しました。私は以前、宮内氏との出会いによりまして、「転がる石にはコケがつかない」ということわざを深く心の中にかみしめました。そして、自分の高い理想に向けて転がるよう努力しようと思えました。大学生活ではまず、自分の為になると思いましたが、一度、退部した運動系のクラブに戻りました。シェイプ・アップしましたし、この体験は、私の心を想像以上に育ててくれました。楽しかったこと、苦しかったことや、ちよつとしたことで自信をつけたり、しょんぼりしましたが、「今、私は何かに向かつて進んでいるんだ」という確実な充実感がありました。

海外旅行の経験も役立ちました。多少の代償と引き替えに、アダムスキーの壮大な体験が行なわれました場所を訪れ、そこには氏の真実性を疑う余地はありませんでした。また、アメリカ、南米の国々での人々との出会い、ブレインカの遺跡は、地球とその歴史の一部に触れる機会を作ってくれました。南米のアンデス高原を列車で移動中には、小さなかわいい女の子と一緒に「汚らしい」と思いつつ、同行の人が作ってくれた折り紙のつるを上げました。彼女は心の底から喜んでいました。そして私も彼女の純粋さを知りました。気持ちや伝えるのに、言葉ばかりでなく行為によつても可能であると思います。そして美しい行為は言葉の障害を乗り越えることができます。

想念の徹底的な観察

さて、想念観察についてですが、無意識で行なわれている心の中の会話に気づこうと思いました。「テレパシー」には次のような目と耳の会話が述べられています。

目「一人の男が通路を歩いているのが見えるぜ」

耳「とんでもない、僕には音が聞こえないよ」

目「だけど男はそこにいるんだ。みんなかへんにいる」

耳「そりゃあ君の空想だよ。この床がどんなに感度が高いかは僕たち二人とも知っているじゃないか。人が歩いているのなら足音が聞こえるはずだ」

といった具合です。私は、心が揺れ動くようなことに出合ったとき、想念がどのように変化したが、正確な観察者となるよう記録してゆきました。急には心に

ついて理解できなくても、どのようなパターンがあるのか、ぼんやりと浮かんできました。時には次のように思うこともありました。「チユ、どうして、あの時のあの印象に従わなかったのだろうか」数分間の想念の流れを観察するだけでも驚くほど多くの想念が心を通過しているように感じました。

良きカルマも、反対の性格のそれも形成することができると思いますが、小さな頃から私には大きな習慣的想念の流れがありました。自分だけのカラに閉じこもりたがりますことは、極端に作用しますと、非常にマイナスになりました。日本では我慢する能力が評価されますが、アメリカでは自己主張できない人は相手にしてもらえないそうです。

私は多くの人々の前で堂々と自分の意見が言える人に憧れていました。このように私でしたが、高校時代にイメージ法が成功したことがあります。新しい学年が始まり、クラス替えのとき、前年度とは違い和気あいあいとした楽しい雰囲気の中でクラスにすることができるようになりました。このとき知り合いました友人は、高校時代では最高の連中でしたし、担任の先生が結婚することになり、いつもほんわか気分でした。また、今では良き思い出となっている大きな失恋もしました。

輝かしい理想とともに

ところで、重要な問題であります。宇宙論的である為には、MUST(？)しな

ければいけない)の必要性はないと思えます。大切なのは、均衡のとれた心であり、創造性のある、その場に応じた生き方ではないかと思えます。如何に理想と現実の間に距離があろうとも、完全さを求めようというのは永遠の課題であると思えます。極端に走ろうとすると必ず失望や不調和が起こります。例えば、自然界に目を向けてみても、セックスなどの問題について極端に罪悪視しなくてもいいと思えます。原理は宇宙論的であり、問題はその用い方です。

「宇宙からの訪問者」では、偉大なマスターが、いつまでも私たちの指針となるようなすばらしい内容を語りかけています。その一部に、「こんな暗黒の中に任んでいるこの人間はだれなのでしょう？ それは、不滅なる者」に奉仕しなかつた救われざる者です。道について語るのは人間ですが、行くべき道を探し求めようとはしません。自分の束縛された心の理解を超えたものすべてを恐れるのは人間です。魂の飢えを否定するのは人間です」という示唆があります。

これこそ、本日、私がお伝えしたかったことです。皆様は、十分御承知の宇宙の法則を体験の中に取り入れてゆけば、それがいつしか自分の一部となつてゆくと思えます。次のような美しい言葉もあります。「私たちは微笑と涙で育つてゆく」アダムスキー哲学という高次元レベルの哲学の応用の為努力することは有意義ではないでしょうか。必要なものは与えられる。この法則はレッスン、自分の今おかれている環境にも当てはまる

と思います。理想を持つことを軽視してはいけないと思います。理想を実現させるまでの試練とその成果の大きさを比べてみてはどうでしょうか。行くべき道

アダムスキー哲学の 実践の喜び

〈新潟支部代表〉 足立亘宏



探し求めようとしないうとして終わるよりも、たとえゆっくりであろうとも確実に前進してゆきましょう。どうもありがとうございます。

れこれ十年経ちました。想えば長い様でもあり、短い様でもあります。その間何をやって来たかと、自分自身に問い返した場合、果して進歩しているのか退歩しているのかということが、自分でもはっきりわかりません。「十年間やっていて、この様でどうするのか」と自分自身に言い聞かせております。

印象の感受を体得する

皆さんこんにちは、ただ今ご紹介いただきました。私は今新潟支部の代表ということになっておりますが、実際は雑用係であり、精神的な面で皆様にお話出来る内容は、謙遜でなく何もありません。ですから本日は、自分自身が今迄アダムスキー哲学をやってきて感じることを、素直に申し述べたいと思います。

アダムスキー哲学には「生命の科学」「テレバシー」「宇宙哲学」というテキストがありますが、そこに一貫して流れているテーマは、皆さんもご存知と思いますが、「心と意識を一体化させる」とです。言葉でいうには数文字しかありませんからとても容易なことです。しかし、「心」とは何か、「意識」とは何かと自分自身に問い正した場合、明確に答がつかめないんです。

「生命の科学」の第一課にさりげなく書かれている所があるんですが、例えば、「ゆえにわれわれは意識の助けをかりて心を発達させるのみならず、同時に意識的な知覚力を拡大させるのです。こうして心と意識が一体化するとき、それを通じてわれわれは創造主に直面することになるのです。以上が進化した惑星の人間が自己を発達させるのに用いている方法です」とあります。

ですから、この「生命の科学」のほんの三行を本当に実践して理解したならば、進化した惑星の人々が行っている生き方と同じ生き方をするに通じるはずなんです。僕は今迄何回も「生命の科学」を読んできましたが、では一体どれだけの短い文章を理解しているのかといった場合、本当に首をかしげたくなるんです。これだけでも本当に実践し理解したならば、すばらしい含みのある言葉だと思えます。そういう訳で、僕も言葉だけでは行詰りを何度か感じました。

その行詰りを多少なりとも解消してくれたのが、僕の場合テレバシーの訓練でした。テレバシーの訓練にはいろいろな方法があつて皆さんも実践されていると思うんですが、僕の場合は一番手軽な方法で効果があつたのがESPカード（ゼナーカード）でした。

学生時代何度もやっていて、どうしても二十パーセントという確率から抜け出せない、調子のよい時と悪い時があつて、平均すると二十パーセント——偶然の確率という状態が長く続いていました。

そこで、こういうことを続けていてはさっぱり進歩がないじゃないかと自分に発破をかけて、ある夜、こたつに入りながら一枚のESPカードを伏せて出して、「これをお前が本当にわかるまで、偶然でなく迷いなくわかるまで感受しようとしてみなさい」と自分自身に言い聞かせてやってみたんです。

それでやってみるとエゴというのは大したもの、五種類全部どころか、とんでもない印象まで次から次へと湧き出して来て、考えがぐるぐる回ります。

そんな状態が三十分位も続いて、本当に疲れ果てて、「もうだめだ」とこたつの後ろにどんと仰向けに倒れたんです。と、その瞬間内部から十字のイメージがはつきり浮かんだんです。僕自身あまりそれがはつきりしていたもので、本当に驚きました。それで確かに開けてみたら十字でした。

それからというものの、確かにアダムスキーがいつている様に、テレバシー能力を身につけていく上で、求め過ぎる心とか、集中した心というのがマイナスなんだということが多少なりともつかめてきたような気がしました。心が「なんなんだろう？ あれじゃないか、これじゃないか？」と動いている間はまだ意識の指令を聞く準備が出来ていないということだと思えます。

そのような些細な体験から僕は一条の光を見出したような気がして、それから気づいた時にはESPカードを何度もやってきました。ESPカードは結果がすぐにフィードバック出来ますから、気

軽で有効な方法だと思えます。

僕はそのようなことを少しづつ少しづつやっていくにつれて、正しく印象が感受出来る瞬間というのは確かに存在することに気付いてきました。心が無になつていくというか、平らになつていくというか、そういう瞬間は確かに存在するんです。これは皆さんすばらしい方ばかりですからおわかりになると思いますが、心がああだこうだと考えているのではなく、内面から湧き起つて来て、間違はなく、疑問なくこれだと言える瞬間というのが確かに存在するんです。

そういう瞬間というのは、今迄生きてきた態度からみると、革命的な程強烈な印象を僕は受けるんです。アダムスキーも言っている様に、自分自身に対する関心を捨てるというか、エゴが我が物顔で振舞つていた時代の事を逆転させるというか……口ではうまく説明出来ないのですが、確かに僕にとつては驚異的な瞬間なんです。

生活の大部分をエゴで生きていますから、ほんのその一瞬、心が意識に耳を傾けているというか、その静まった状態というのは心にとつては恐怖というか、今迄自分が一番偉いと思つていたのに、その上に、ドーンと大きなものが現れるような気がして、非常に革命的な印象を受けます。

そういう事を何度も何度も繰り返して行くうちに、心が平らになる状態というか、意識に耳を傾けている状態というかとを体で覚えるということ、理屈でなく、文字でなく、体で覚えるということが僕

にとつては一番素直に自分の気持ちに受けられました。

理屈であらうだと言つてお返ししていても、自分自身に身につく事は今迄の体験からはほとんどないんです。自分の身近で出来る体験方法、実験方法を通して体で覚えてゆこうと、自分に言い聞かせています。

それで、僕の様な者でも、そのような多少なりとも光の差すような体験をする、それがものすごい信念になります。

「自分はこういう事を実際にこの体で感じたんだ」ということが、小さいけれどもすごい信念になると思っています。

人の言葉を借りて言うのではなく、自分自身の言葉で話す。自分が本当に内面から感じた事が僕にとつては不動の信念となります。

アダムスキー哲学は最高

僕も気が多い方なものですから、アダムスキーに似た様な書物を本屋さんで見つけて来ます。たいして実践もしないでアダムスキー哲学への理解が頭打ちという状態でフラフラしていると、すぐにその様な本に手が伸びるんです。そしていい加減に読んで「ああ、たいしたことはない加減に読んで……」と思つて、しばらくするとアダムスキーの本にまた帰るんです。そしてそれを読んで、「ああ、やっぱりここに自分の心の安らぎを感じる」という想いに没する時、ああだこうだとよそに目を移すのではなく、もつと「生命の科学」なり、アダムスキーの本にとつ

しりと腰をおろしてやつていかななくてはならないと思うんです。

いろいろと手を出したところで、精神的に自分を指導するテキストとしては、アダムスキー哲学の書物が一冊でも、一章でもあれば充分だと思えます。それを本当に実践していったら、理解していったら、すばらしいことだと思ふんです。

僕は今迄、それを表面的に言葉の上で遊んでたんじやないだろうかと感じることがあります。

地球上で学ぶべきこと

僕は学生するとき四年間、GAPの月例会にはほぼ休みなく毎月出させていただきました。出席するたびに久保田先生はじめいろいろな方々の有益なお話を聞いて、すごい高揚感を感じました。自分でいってはおかしいですが、まれにみる高貴な学生生活を送っていたんじやないかと思えます。

でも卒業してからは、父のやつていた小さな印刷会社に世話になりました。それから僕が僕の苦難の道でした。今思うと、本当によく生きていたと思えます。それは学生生活があまりにも高貴すぎたというか、現実社会から離れていたからだと思います。

社会で働き始めた頃は、本当に神経を使つて毎日胃腸の調子が悪く、どす暗い顔をして、悲惨な生活を送っていました。それはなぜかという、一番心に抵抗を感じた事が、今の社会が競争社会であるという事でした。他人をけおとしてでも

自分の企業を大切にしようという意識が社会全般に満ちているんです。

僕も営業というお客さん廻りをさせられました。みんなが神経をすり減らしながら自分の為、自分の企業の為に働いているという姿を見るにつけ、本当に苦痛でした。特に役所の入札の時などにその事を強く感じました。

しばらくそういう状態が続いて、このまま社会で生きるのがいやだやだと思つていたので、自分自身がどんどん窮屈になつていってしまうんです。

それである時期、営業に生きようと思つたことも手伝つたのかもしれないが、「やりたい人にはやらせておけ。社会から逃げようと思つて、体当りでやつていこう」と思うようになりましてから、また僕の道が少し開いたような気がしました。そう考えるようになってから、健康状態も如実によくなりました。

僕らが実社会で生きていきますと、我々がアダムスキー哲学で考える理想とはあまりに程遠い現実社会に直面しなくてはいけないと思ふんですが、僕はそういう現実から逃げたいけないと自分自身に言い聞かせています。

僕らはこの地球上から何かを学ぶ要素があるから生まれてきたのですから、どんなにいやなことでも、苦しいことでも、僕はそれに直面しようと思えます。直面して、その中で解決法を自分のやつていくアダムスキー哲学から見出そうと思えます。そうやつてこそ、僕が現実社会に生きている意味も、アダムスキー哲学を学んでいる意味もあると思ふんです。

「意識」という海の中で

僕は何をやるにしても健康を大切にしたいと思います。

実は僕は山登りが好きなのですが、汗を流して山に登って、疲れて、休んで、食べて寝るという生活はとてもシンプルでいいですね。そうやって汗を流して運動した後というのは、想念も確実に向上しているのが手に取る様にわかります。机にかじりついて本ばかり読んでいるというのは僕の性に合いませんね。やはり何か活動して、運動して、汗を流して、夜になったらアダムスキーの本を読んだり、あるいは好きな音楽を聞いて楽しむというように、心と体と意識のバランスのとれた生活を送ることも重要だと思えます。

以上僕が述べたことは、僕自身が感じることでありまして、皆様にとって取るに足らないこととお考えになれば、無視して下さい。

内面の問題というのは究極的には各個人が判断することですから、「人がああ言ったから、自分は……だ」というのではなく、自分が正しいと思ったことと実際にやってみるが大切だと思えます。実際にやった結果は必ず自分に返ってきますから、その後で直すべき点は直していけばよいと思えます。

最後にある本で読みました話をしたいと思えます。

お魚の学校がありまして、魚の生徒が先生に聞いたんだそうです。

「先生、私は今迄何度も『海』というものがどういふものか教えてきてもらいましたが、私はこの年になっても『海』というものが理解出来ません。一体、『海』とはどういうものですか？」

魚にとって海というものは自分の生きる場ですから、海から離れて生きたことのない魚にとっては、海というものを他と比較してわからないんだそうです。

それと同じことが僕らにもいえると思うんです。理屈で意識をわかっていても本当のところはつかめないと思うのですが、実践していくと、意識というものを言葉では言えませんが、身をもって感じる時があります。

それで、先程の魚が海についてわからなかった様に、僕らも意識というものがあまりに身近にありすぎて、何をすることも意識から離れて生きていけない我々にとつて、すぐ目の前にあたりまえに存在している意識に気付かないように思えます。

ちょっと心を開いて、周囲を、自分の内面をみれば、意識の海の中で我々が本当に自由なんだということが実感できると思うんです。意識を実感しながら生きていくこと自体、生きていて楽しいですし、心に揺がりがあると思えます。

長々と支離滅裂な話をしてしまいました。だが、ご静聴ありがとうございました。

紙面の都合により残る二名の講演録は次号にまわします。ご了承下さい。

(編者)

●日本GAPはスペース・プラザーズに注目されている!?

総会の日「UFO」を目撃

〈その1〉

愛媛県 伊藤達夫

十月十日の総会終了後、東京駅丸の内側の路上で偶然に二機のUFOを目撃する機会に恵まれました。その時の状況を述べてみたいと思えます。

その日、ヤクルトホールで開かれた日本GAP総会が終わったあと、私は七、八名の会員の方と一緒に新橋駅から電車で夕食会場のある東京駅に向かいました。吊り皮におら下がりながら「2001年宇宙の旅」の感動的なシーンを思い起こしていたのです。総会の日には毎年のようにUFOが上空に現われることは、その時点ではすっかり忘れてしまっていたし、ましてやUFOを見たい、などという気持ちは全くありませんでした。五時十分頃に東京駅に着いたので、中央口から駅の構内に出て、そこから構内を通過して精養軒に行くつもりでした。それで中央口の出口を出てそのまま構内を歩いて南口へ行こうとした時、ふと私は駅の外へ出たくなってきたのです。丁度その時一人の会員の方が「それでは構内を通過して行きましょう」と言ったのです。その瞬間私は、「いや、いったん駅の外へ出ましょう。外へ出てから南口へ行きましょう」と言ってスタスタと先頭を切って歩き出しました。同行の皆さんは一瞬、不審な顔をされたようでした。私自身も、あの時どうしてあのような行動をとったのか今でも不思議に思うことがあります。常

識で考えれば、何も駅の外へ出なくても構内を通るのが普通なのに、わざわざ外へ出ようなどと私が言うものですから、変に思われたのも無理はありません。

とにかくそんなわけで、駅の外へ出て丸の内側を、右手に皇居の緑の木々や新・旧丸ビルを見ながら約二十秒ほど歩いた頃でしょうか。誰かが「UFOだ」と叫ぶ声が聞こえたような気がしました。見ると通行中の二、三人の人が上空を指さしているではありませんか。私達もいつせいにその方向を見やりました。私の横にいた静岡の橋口氏が「あ、あそこだ!!」と指さす方を見ると南口と旧丸ビルの中間、仰角(見上げた角度)45度、50度のかかなり上空にポツンと丸くて白い物体が見えました。その物体はさらに上昇しつつあるように思われ、少しは右側に移動していたものの、ほとんど定位置の状態でいました。橋口氏は自分の大型双眼鏡で見えていましたが、よく見えないと言うので私がかわってレンズをのぞくと、不思議なことにその物体の近くにある雲は見えているのに、かんじんの物体が見えないのです。二、三度同じことをくり返したのですが、どうも見えない。そうするうちにも物体は徐々に上昇してゆくので、心は焦ります。見えなかった原因は、ピントがズレていたことがわかり、急いでピントを合わせました。今度ははつき

（その2） 京都府 仲間秀樹

りと物体をとらえることに成功しました。双眼鏡のレンズを通して見た物体は、丸い型をしていて太陽の光を受けてまばゆく輝いていました。飛行機や鳥とは全く違ったものでした。見つめているうちに更に高度を上げて上昇してゆきましたが、かなり長い時間見えていました。

ところが、この物体が肉眼で見えているさ中に、今度は東京駅南口の屋根をかすめて楕円形の物体が飛びました。かなり低い高度を旧丸ビル方向に飛んだのを広島の佐々木さんや京都の仲間氏が発見し、私もその物体を確認することができました。仰角約25度、30度でしたから、おそらく新橋上空を飛んだものと思われるます。

路上では私達以外にも多勢の人が歩いていましたが、この騒ぎで誰もが上空を見上げてめいめいが指さしているうちに大騒ぎになりました。子供達も、低空を飛んだ楕円形のUFOを見つけて「UFOだ」と言って騒いでおりました。目撃者数はおそらく何十人にものぼったと思います。

偶然にせよUFOを目撃出来たことはとても幸運でした。昨年までの総会当日の目撃報告は、そのほとんどがGAP会員によるものでしたが、今回は進行中の一般人も多数目撃したことに意義があるように思います。これで、総会当日のUFO目撃がGAP会員だけに見えると思えないことが立証されたと思います。

先日の総会ではとても意義のあることがありました。多分まちがいではないと思いますが、円盤が出現したのです。

総会が無事に終わり、東京駅構内精養軒で催される大夕食会へ向かう途中のことです。時刻はたぶん午後五時すぎ位だと思えます。私は松山支部の伊藤さんや佐々木姉妹、三浦さん、名古屋の斎藤さん、それに富士市の橋口さん達ほか数名の方々も、東京駅の丸の内側で一旦改札口を出て、丸の内側の駅前の歩道を歩きながら精養軒のある南口へ向かっていました。その時は伊藤さんと総会の感想を語りながら歩いていた所、後の方で数名の方が「あれは何んだ!？」と言われているので、立ちどまって指さしている方向を見ましたが、その時私には見えませんでしたと言われるので、じつくり見ていると、丁度精養軒のある南口と、皇居との方角の間くらいの所で、急速に見かけ直徑5センチくらいの白く白銀色の物体が左の方から右斜上方に移動し、消えました。この方向には鳥が飛んでいるのが見えましたが、それとは全然違いますし、飛行機にしては形と動き方と違い述べているのです。この時にはほかの方々（伊藤さんは双眼鏡で見えておられたし、斎藤さん、橋口さん、佐々木さん姉妹、三浦さん等）も目撃されておりました。又通行中の人も数名立ち止まって空の方を見上げていました。私が目撃したのはほんの数秒でしたが、ほかの方々の目撃された時間を含めると、数分間はあったと思います。客観的な事柄が少なく、はつきりと憶えていない部分が多いのですが、以上が目撃の報告です。

（その3） 静岡県 橋口眞市

ここからは私の主観と個人的な見解ですが、今年の総会では私に何か信念の意味を知るチャンスがあるような気がしていたことととても結びつくようで内心勇気づけられたように思っています。そしてこのことは、このような社会で日本GAPが確実にブラザーズから注目され援助されているのだということも感じました。

昭和五十六年度日本GAP総会は、秋晴れの好天に恵まれ、全国各地から熱心な会員の方々が、会場のヤクルトホールに集まり、宇宙的雰囲気の中、大成功のうちには終了した。

終了後、夕食会出席の為新橋駅に向かつて歩いていると銀座の方の上空に黒い物体が浮いているのが見えた。「何だろうか?」と黒田さんに話しかける。鳥でもないし、風船でもなさそう。詳細はわからない。この物体が見えなくなつてから駅の方に十米位歩くと、また銀座方向の上空に黒い物体が現れたのを他の会員のみなさんが見られた。新橋駅のホームに行くとき伊藤さんと仲間さんや松山支部のみなさんがいた。ほかの人は前の電車で行かれたようだ。東京駅に着き丸の内側に出たが、女の人が丸の内南口構内は向こうですよと言われ、伊藤さんたちと丸の内広場を精養軒に向かって歩いて行く。あと五十米位のところまで来たとき上空を見上げると飛行機が飛んでいる。

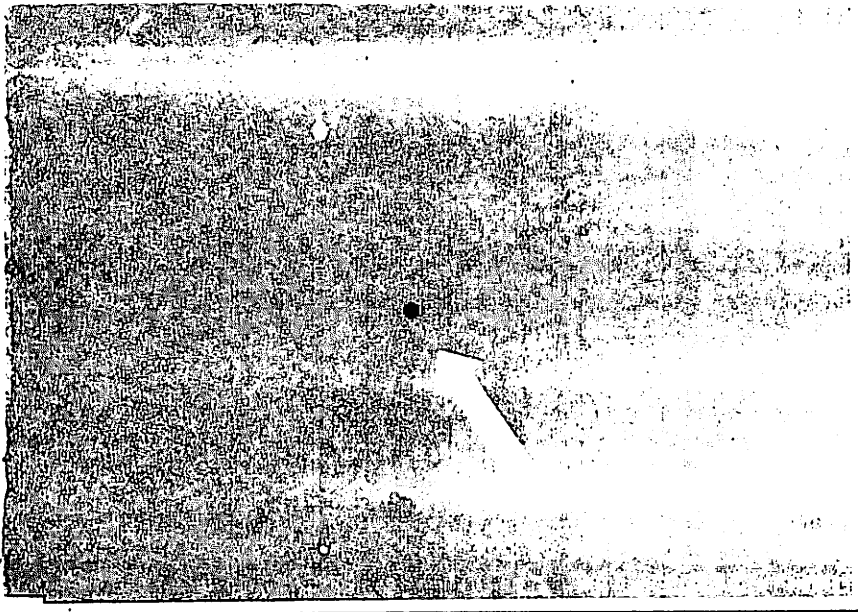
UFOの撮影に成功!

その下に白い物体が浮かんでいた。「あれは何んですか?」と指を差すと、伊藤さんや仲間さんが双眼鏡で見た。かなり遠くの上空にいるみたいである。伊藤さんが「右手の方のビルの上空を横切ったようだ」と話された。時間は五時十分前後だった。そばにいたのは伊藤さん、仲間さん、松山支部のみなさん、その他丸の内広場だったので一般の人も見つたようだ。GAP総会とUFO、いつも私達に力強さを与えてくれる。

以上は三名の会員による総会当日のUFO目撃報告であるが、この他に撮影に成功した人もいた。松村芳之氏（東京・足立区）がそれ。氏は写真学校の学生でカメラの腕はプロ級。毎年日本GAPの総会当日に会場付近にUFOが出現することを知っていた氏は、この日、満を持して二台のカメラを準備し、望遠百三十五ミリレンズまで装着して会場を出た。

夕食会場へ向かうために新橋駅方向への道路を歩きながら空中を見上げてみると、突然黒くて丸い物体が三和銀行の上空から吉野家の方向へ飛ぶのを他の会員数人が発見して指さしているのを見て、氏も素早くカメラをかまえて見事にキャッチ。ネガカラーとリバーサルカラーの両方に連続各十枚程度に黒い円盤型物体が小さいながらも鮮明に浮き出ている。次頁はその内の2点と拡大写真。

①



②



● 総会当日の円盤

撮影 松村 芳之 (東京)

昨年10月10日、東京新橋のヤクルトホールで行われた日本GAP総会終了後の午後5時20分頃、国鉄新橋駅前付近で松村氏がキャッチした円盤。(1)は右の写真の物体が小さいので左側に拡大写真を示した。(2)は三和銀行の上空を飛ぶ円盤。

データ

①ヤシカFR / ズナー 135mm
F2.8 / F4.1 / 500 / コダカラ
ラー 400

②コンタックスRTS / ズナー
135mm, F2.8 / f5.6
オート / コタックエクタク
ローム400 / ダイレクトプリ
ント

載回 4 連第

さらば空飛ぶ円盤 ジョージ・アダムスキー 久保田八郎 訳

● 第5章

わが太陽系内の変化

自然の異変に対して人間はテレパシクな予感力を強化する必要がある。世界の遺跡には太古に異星人と交流した証拠を示す物が残されている。それを発見せよ!

最近私は数多い「円盤崇拜教」の一つのある団体から送られた機関誌を読んだが、それには地球上に大変動が発生すると述べてあった。つまりこの大変動が発生したときには異星人が飛来して、選ばれた少数の人々を地上から救出してくれることになっているというのだ。これは全く根拠のない物語である。

たしかに地球上には諸変化が起こりつつある。科学者もこの事実を気づいているし、発生しつつある物事を世界の人々に警告しようとして、その問題に関する多くの記事が書かれている。国際地球観測年は地球とその環境についてより以上に知るために設定されたものである。現在起こりつつあるこの諸変化や近い未来に起ころうとしている変化などは、あらゆる惑星に周期的に影響を与える自

然の出来事の結果である。これまでも絶えず地震があつたけれども、それは一つの自然現象である。近頃はその発生頻度も高まつてきた。地域によっては通常この自然現象にわずらわされないとこもある。この地震なるものは地球の内層ばかりでなく外部で続く諸変化のために少し激しくなつてきた。

テレパシクな予感が重要

このようなときには不幸と死がいつもつきまといつてきた。ところで、宇宙人からキヤッチしたと思われている心靈的なメッセージの内容はでたらめなものであつて、このような「死」は神の罰の結果ではなくて適切な時機に間違つた場所にいることから起こるのである。

ある人が無差別に選ばれて地震または他のいわゆる「神の罰」によつて死んだとしても、それは全く本人がその特定の時機にそこに偶然いたからにすぎないのだ。それはあなたであつたかもしれないし他の人であつたかもしれない。

もし大衆が科学者の警告に注意するかまたは「自分のいる地域から逃げ去ろう」という自分自身をせきたてるようなフィリング（感じ）に注意を払うならば、災害による死は大いに減少するだろう。自然界では動物が来たるべき災害の時期に先立つて警告を感じることが我々は知つている。同じように我々人間も自分の印象またはフィリング（感じ）によつて警告されてはいるのだが、通常はそのようなものを無視しているのである。

最近日本では多くの人が高潮警報を無視したために多数の人命が失われた。（訳注）これは一九五九年九月二十六日、紀伊半島南端に上陸した巨大な伊勢湾台風を意味する。愛知、岐阜、三重の三県で死者約五千人、負傷者三万九千人、倒壊・流出家屋四万戸という明治以来最大の被害で史上有名である。

この恐るべき台風が襲来する前日の静寂のさなか、名古屋動物園の小鳥たちは奇妙にもいっせいに止まり木から降りて地面で羽をばたつかせていたという。事件前に感じた強烈な災害の予感のために死をまのがれた人もあつた。

ニューヨークの地下鉄当局の発表によると、ある大事件の発生した日、いつも乗るはずの乗客の多くがその日に乗らなかつた事実を明らかにしている。調査の

結果、彼らはその日に限つて「乗るな」という内奥の「警告」を感じていたことがわかつた。

こんなフィリング（感じ）がどこから起こつてくるのだろうか？ なぜ起こるのだろうか？ それは動物に危険を警告する感覚と同じ源泉から起こるのである。だからこそネズミが沈む運命にある船から逃げ出したり、火災や洪水が起こる地域から動物が前もつて逃走したりするのだ。来たるべき事件にたいするこのような警告をあらわす言葉は「予感」である。

異常な自然現象が増加する

地震、暴風、竜巻のような自然現象がこれまでに急速に増加してきた理由を説明し得る二、三の理由がある。

一九五九年十月二十四日、ウィルソン山とパロマー山天文台のハロルド・D・パブコック博士は、太陽の磁極が逆転したと声明した。その逆転はゆっくりと行われて、終わるまでに一カ年近くを要した。逆転前には太陽の磁極は地球のそれと反対であつた。

この磁極の変化は多くの点で地球に影響を与えるだろう。そのために、宇宙空間で相互に影響をおよぼし合つている多くの磁場に同様な変化を起こさせるだろう。

地球の磁場はこれまでの軌道における慣性の運動のために元のままにとどまろうとするけれども、そうしようとする地球とそれを変えようとする逆な磁場との衝突のために、それまでに表面にあらわ

れなかつた圧力が発生するかもしれない。そうすると平常は地震などが起こらない多くの地域に新しい地震が起こることになるだろう。気流が新たな方向に流れるので、地球の磁場が次第に変化するにつれて気象のパターンも急激に変化するだろう。海流も新しいコースをとるだろうし、このために海洋の水温も変わることにになり、その結果、一定の水域に見い出される海中の生物のタイプにも変化が起こることになるだろう。

海洋の変化はすでに現れている。水温の変化のために、以前カリフォルニア州沖でとれていた魚は現在アラスカ沿岸の沖合でとれている。サメ類がこれまでに発見されなかつた海域に移動しつつある。カリフォルニア州の気候はこれまでになく冷えて湿気を帯びてきた。

大自然とは無関係に他にもいろいろな事が起こり始めているが、これらは地球のロケットや人工衛星などの打ち上げ実験のためである。この実験は科学研究の結果をあげるために必要ではあるけれども、あらゆる実験が多少とも地球にたいして影響を与えている。このわずかな影響でも各国の多数の人によって注目されているのである。

大気圏外というものは見たところ不活動な状態にある広大な海にたとえてよいだろう。しかしそれはそれ自体の内部に大活動を起こしているものであり、しかも地球の科学装置では理解ができないほどの活動なのである。

ロケットや人工衛星が空間を通るときには、このいわゆる穏やかな状態を擾乱

するのであって、そのために地球ばかりでなく太陽系内の全惑星に余波が生じる。こうした影響が通常気まぐれな気象または異常気象といわれていて、大抵の人にはかすかな不安感を与えるだけである。大気は重く凝んだ感じがするけれども、なぜそんな感じがするのか人々にはわからない。これは危険ではないが、不慎れな現象なので人間として我々はそれに気づくようになるのだ。我々が宇宙へ進出するとともに人工衛星やロケットの往來が増加するにつれて、こうした異常気象はさらに多くなるだろう。

結局、我々がこの宇宙開発計画が確立されたと感じる頃には、地球人もこのような大気状態の変化に慣れてしまい、それをあたりまえだと考えるようになるだろう。

このよい例は、なんの変化もない部屋の中に数年間住んでいる人をあげるとよい。本人はその部屋の一部分になつていて、それとの一体化の感じを持つている。空気の流れはまるで家具類のように毎日同じである。

ある日彼はまわりの家具類を取り替えたとして。するとただちに部屋全体の感じが変わってくる。一定の通路を順当に流れていた空気は別な道筋を流れるようになる。表面の意識ではこのわずかな流れの変化に気づかないけれども、潜在意識は気づいていて、その結果、周囲の微妙な相違を感じるのである。室内の物体から発する極微の波動も異なってくるが、これをも感ずるのである。

これと全く同じ事が宇宙にも起こって

いる。地球のロケットや人工衛星群は宇宙空間のいろいろなパターンを擾乱して圧力を変えているのであって、いわば広大な空間をさまざまにかき乱しているのである。人間として我々はこれらの小さな変化を感じて、そのために不安になるのだ。

変化を恐れてはいけぬ

地球の大気圏内や宇宙空間の最も危険な擾乱はロケットや人工衛星群によってなされるのではない。大気圏の調和のとれた擾乱のかわりに激変を引き起こす爆発によってなされるのである。戦争が続いているあいだに気象条件がひどく変化することはだれも皆知っている。これは大気の正常な圧力と密度に反作用する爆発類から発生する圧力波によって起こるのである。人工雨を降らせる飛行機からまかれる少量の物質が、ほんの短時間で数千トンの水になつて落下することを我々は知っている。核爆発のなかには島全体を粉みじんに吹き飛ばしたのものもある。

ある場合には三立方マイルの物体が空中高く舞い上がったこともあった。空中に飛ばされたこの莫大な量の物質が数十年のあいだにきわめてゆっくりと落下すると、そのときそれは概して気象に影響をおよぼすのである。

水爆によって引き起こされる地球の磁場の内部の変化は、太陽の磁極の逆転によつて起こされる変化と結びついているのだが、これは長いあいだに種々の変動を発生させるだろう。宇宙空間の自然の

状態にたいするこれらの恐ろしい歪みのために、地震や津波などのような地上の変動も起こるだろう。ロケットの各段を切り離すために必要な爆発がさえもある変動をもたらすのである。

いつか我々がこれらの諸目的のために自然の力を動力に利用することを知ったとき、このような変化の状態は排除されるだろうが、今日の宇宙開発実験が続く限り、正常な気象を期待することはできない。

人々はこの変化を恐れてはならない。むしろそれを理解することを知るべきである。それは進歩の代価なのだ。ひとたび我々が宇宙旅行を達成したならば、物事は正常にたち返り始めるだろう。それは以前とは異なるかもしれないが、だれもがその変化に慣れるので正常なものと認められるだろう。世界と太陽系は人類の進歩に関してその位置を変えるのである。これは危険に思われるかもしれないが、正しく理解されるならば危険ではない。進歩はすべて最初は危険そうに見えるものなのだ。

一例として、人間が原始野の中にハイウエーを建設しようとするとき、何に出くわすか全然わからない。彼は孤独の淋しさを感じて何かが起こりはしないかと思う。進んで行くにつれて彼は爆破しなければならぬ地域や容易に移動できる地域などを見出す。さらに進むにつれて犠牲さえ払いながらも芋んでゆく。そしてひとたび樹木、灌木、岩石などが取り除かれてハイウエーが完成すると、その原始野の雰囲気は一変する。人々は

不安や恐れを感じを持つことなく、そのハイウエーをドライブする。以前は危険がひそんでいると思われた場所へ家族は車を停めてピクニックを楽しむ。かつては人を入れなかつた森もいまは子供たちが笑いざめいて遊ぶ公園となっている。

このことが現在宇宙空間と大気圏内に起こっているのである。我々は大気圏外に向かつて冒険を試みるにつれて、「爆破」されねばならない所や、容易に移動できる所などに出くわすのである。危険なように見える場所もいつかは旅行者の楽しみになるだろう。地球上でもそうであるように宇宙もそうなのだ。

結局は社会組織などもその環境や大きく高まつてくる理解力などと融合するだろう。我々は状況の如何にかかわらず心に目標を持たねばならない。最後の達成はあらゆる犠牲を払う価値があるのだ。

●第6章

異星人の象形文字

わが太陽系内のあらゆる惑星には人間が住んでいる。人間の家族もそうだが、惑星系の内部も同様である。つまり個人の発達やその結果が人によつて異なるけれども、惑星もそうなのだ。近隣の姉妹惑星群の人たちが、我々が地球で学んだものとは違ったレッスンを学んで

いるということは驚くにあたらない。戦争をしないで発達していった人々は、次々と文明を破壊していった人々より以上に進歩をとげているのは当然である。

砂漠の足跡と関連したものがある

長いあいだこの世界の考古学者たちは過去の文明の遺物を多く発掘してきたが、そのなかには我々が今日知っているもの以上に発達をとげたことを示しているものがある。たとえば錬金術などがそうだ。

多くの例のあることだが、世界の辺境地で岩石に刻まれた不思議な文字が発見されている。この発見物については多くの書物が書かれているし、このような記録を残した人々の正体を理解しようと絶えず努力が続けられている。しかしこれらの文字のなかには依然として推測の域を出ないものもある。これらは未知な、不可解な言語であるからだ。

世界に分布する孤立した土地で埋没している都市が次々と発掘され調査が続くにつれて、その発見物の多くに関連した一つの型がつけられつつあるように思われる。

一九五二年十一月二十日にカリフォルニア州デザートセンター付近の砂漠で、金星から来た人と私が会ったとき、その人は自分の履いていたサンダルの裏に文様を刻みつけていた。これは我々が立っていた場所の地面に残されて、「宇宙からの訪問者」の第一部「空飛ぶ円盤は着陸した」の中の私の記事で述べたように、この足跡は石膏にとられたのである。

砂漠での会見

この日私と数人の友人たちは宇宙船（注：UFO）の写真を撮りたいという希望をもってその砂漠へ行っていた。このような地域には円盤が低く降りて来るという多数の報告を私は受け取っていた。この円盤なるものが我々と同様の人間によつて操縦されていることを私は疑わなかつたけれども、なによりも私はその一人に会いたくてしようがなかつたのである。

例の円盤が接近して来たとき、私は素早く一連の写真を撮った。そしてそれらがうまく写ってればよいがと思つた。当時私は今でもそうだが「プロの写真家ではなかつたからだ。これらは乾板だったので、私はカメラから取り出しながら一枚ずつシャッタのポケットへしまい込んだ。このときの私の興奮ぶりと、相手に話しかけようと焦つたときの緊張ぶりは充分におわかりになるだろう。見たところ相手は我々の言語を理解するとは思えなかつたからである。意志の伝達はテレパシーで行わねばならなかつた。

こんなふうにして数分間話を交わしたあと、ほど遠かぬ所に待機していた円盤の方へ二人は近づいて行つた。（地面から数フィートの空間に）滞空している円盤から離れるようにという彼の警告にもかかわらず、私は彼に話しかけようとして振り向いたときに、円盤から放射されているパワーに私の肩が触れたのである。機体の縁が私の頭の少し上にあつたのだ。この放射線のために傷を受けるかもしれないということに私は気づいたけれども、そのとき私はなによりもシャッタのポケットに入れていた露出済乾板のことが気がかりになつた。そこでなにげなくポケットからそれらを取り出して別なポケットに入れたのである。すると金星から来たこの友好的な人は一枚くれないかとばかりに片手を差し出した。私は彼の素振りを理解して相手の方へ全部を差し出すと、彼は一枚を取つた。

帰宅して写真屋へフィルム（訳注：ロールではなくシートフィルム）を送つて現像してもらつたところ、ネガ全部がまるでエックス線にさらされたかのようにカブつているのに気づいたのである。

共通する象形文字

この最初の会見から二十三日後に例の円盤がまたやつて来た。今度は私の家だ（訳注：パロマー山のパロマーガーデンズ。現在はキャンプ地になっている）。そしてカメラを装着した自分の望遠鏡を使用しつかりよい写真を撮ることができた。その小型円盤が私の立っていた場所へ近づいて来たときの私の驚きを察していただきたい！丸窓が開いて、あの友が最初の会見後に持つて行つたネガを包んだまま落としてくれた。写真屋に現像してもらつたところ、元の露出は洗い流されていて、かわりに彼の足跡にあつた文字とよく似た象形文字がその乾板に現れていたのである。

そのとき私はこの象形文字に含まれているメッセージについては何もわからなかった。また地球のどこかにそんなものがあることも知らなかった。数年がすぎることによって世界中の多くの人がこの文字を解読しようと努力してきた。しかしその(解読結果の)ほとんどは心霊的な性質のもので、正確な意味とはよほどかけ離れたものだ。異星人の友人たちから聞いている。

一九五六年にメキシコで休暇をすごしているとき、私はスペインから一通の手紙を受け取ったが、それはその国のある人が円盤から出て来た人と個人的な意見をしたこと、それが一九五二年に砂漠で私と会った宇宙からの訪問者と同じ人かどうかを尋ねた文面であった。この場合は異星人がそのスペイン人に一個の美しい奇妙な石を与えたが、その表面にも見慣れぬ文字が刻まれていたという。手紙の中に同封されていたその石の写真には、私を受け取ったあの文字とよく似た象形文字が写っていた。

過去数年のあいだに私はマルセル・F・オム教授の「太陽の子」という書物を知ったけれども、その中にアルゼンチンで発見された象形文字の記された一枚の板が複写されている。ある点でこの象形文字は円盤から落とされたあのネガの文字と同じものである。私を知る限りではこの書物はドイツ語だけで出版されている(訳注)後に英語版も出た。

こうして地球の古代文化と別な惑星とのコミュニケーションと関連とを結ぶ事

実の鎖に新たな輪が加えられることになつた。その記録のほとんどは数千年のあいだに失われたかまたは故意に破壊されたのである。

宇宙文字を解読して宇宙船の図面を作成!

さて、この象形文字が私に与えられたおもな理由の一つは、地球人が欲しがっていることを異星人たちは知っていたというこの「具体的な証拠」を与えるためであった。彼らの多くは地球人の理解をはるかに超えて自然のテレパシーの能力を発達させているので、我々が自身自身を知っている以上に彼らは我々をよく知っているのである。これは彼らが短期間なり長期間なり地球へ来ることに決める場合、時間と努力をかけて地球人の習慣や考え方を熟知するからである。

私が撮影した宇宙船の写真類は、ある人々にとつて役立つことを異星人たちは知っていた。一方、私の円盤写真は私の想像の産物で、私が模型を作ってそれを撮影したのだと非難する人も多くいるにちがひなかった。実際のものだ。

もちろんこんな非難は誤っていることが立証されていて、今日では数カ国が円盤と同型の航空機を建造中である。最初この型は航空力学上のあらゆる法則に反するので宇宙飛行は不可能だといわれていたのだ。

象形文字が円盤写真という証拠物件に重みを加えるだろう。そして異星人と接触しつつある我々の現在の体験と、いま発掘されつつある古代の記録とのあいだ

の必要な一環として役立つだろう。

当然予期されるとおり、他の世界から来たこの文字の正しい解読を長いあいだ一生懸命に試みてきた真面目な人たちが少数いる。

一人はアフリカの科学者で、ネガと足跡の文字の両方と取り組んでいた。そしてついに異星人から正しいと確証を受けるにいたつたのである。ネガに現れている各文字を「はめ絵のコマ」として応用することによって、彼は円盤の図形を作成することができた。また両足跡の文様の中にその文字を加えて大母船の図面を作り出したのだ。象形文字を研究したりあれこれと配列をやり変えたりしているうちに、宇宙船で用いられる推進力と、パワーがコントロールされる方法とに關して彼はあるアイデアを思いついた。そこでこれを応用して実験してみたところ、驚くべき成功を収めたと彼は報告しているが、詳細は知らせてくれなかった。

(訳注)この科学者は南アフリカのバシル・バンデンバーグで、彼は小さな反重力モーターを開発した。これは円盤の原動機と同じ原理を応用した驚異的な大発明だったが、アダムスキーの忠告を無視して早目に新聞記者団に公開したために、その後何者かに拉致されて消息を絶つた。約一年前に私が彼から最後の便りを受け取ったとき、彼はなおあの象形文字と取り組んでいて、実験の結果ある「非学理的な」諸発見をなしたので、記録をとっているということだった。時と機会があったときにその発見について書物を書く計画であるとも述べていた。これは

その発見が現在認められている多くの学説を根本的にくつがえすことになるからである。これをなしてあげてから彼はアメリカにいる私に会いに来たいということだった。私は彼の訪問を楽しみに待っている。

日本からは美しい巻物を受け取ったが、それを翻訳してもらったところでは、その文字は東洋のある地域の古代の歴史と哲学について書かれたものであった。

(訳注)この送り主はむかし訳者と交流のあった神戸市在住の韓国人、朴氏であると思われる。訳者が七年前カリフォルニア州ピスタのアダムスキー財団を最初に訪れたとき、アリス・ウェルズ夫人がこれを見せてくれた。

異星人は次の事実を認めている。つまり地球の古代文明の歴史やその文明の哲学のなかには、彼らの惑星で知られているものに一致するものがあり、それが例の象形文字の中に含まれているというのだ。

それで、ずっと以前に私に与えられたあの象形文字の完全な説明をすることは現在でも私にはできないけれども、その文字はおそらく目的を果たしたであろう。異星人は満足の意を表している。しかし我々が宇宙の方に向かって前進を続けてやがて近隣の惑星群に到達するとき、我々はやがて彼らの首語を知るだろう。そのとき地球の例の古代の文字の解読ばかりでなく、大範圍外からも象形文字の豊富な輸入があったことが地球人に知られるだろう。(第6章終り。以下次号)



眠れる地球人

ジョージ・アダムスキー画

●画才のあったアダムスキーは数点の宇宙的絵画を残しているが、これもその一つ。岩の上に眠る男は宇宙の法則に気づかずに惰眠をむさぼる地球人をあらわし、池の白鳥たちは男を目覚めさせようとする友星人を意味するという。米アダムスキー財団の広間の壁にかけてあったのを石川敏雄氏(東京)が昨夏撮影したもの。

回想のアメリカ・メキシコの旅(2)

到着順に掲載

人間はみなおなじ

愛媛県 伊藤連夫

今回の旅行に参加して貴重な体験を積むことが出来まして大変嬉しく思っています。私は海外へ出るのは初めてのことで「井の中の蛙」が大海へ出たのと同じ心境でした。見るもの、聞くもの、食べるもの、すべてが、珍しい事ばかりの連続で、ともすればマインドに振り回されそうになる自分でしたが「どこでだれがどんな生活をしているか」という点に焦点を絞るように努めました。

地球という惑星上で国家や民族、皮膚



●左が久保田会長、右が伊藤連夫氏。カリフォルニア州ピスタのアダムスキー財団にて。(升田裕子さん(広島市)撮影)

の色や言語は異なっているも人間の基本的生き方は同じであることを実感としてとらえることが出来たと思っています。

どこへ行っても高貴で親切な思いやりのある人がいる一方で、どう慢で低劣な人がいるという玉石混交の共同生活を営んでいる様子は、世界共通の現象ですね。

アメリカ・メキシコに共通しているのは国民がとても大らかで陽気でも人もなつこいことでした。それと時間にそれほどとらわれない点です。そのことはロサンゼルス空港でのゆったりした通関手続きやメキシコの空港で3時間以上も出発が遅れているのにゆったりした態度で待っている現地の人々の姿に象徴的に表れておりました。このゆとりは到底日本人の及ばないところです。ゆったりした態度を保つことは優美であるだけでなく宇宙的に生きる上でも極めて大切なことだと痛感します。

半面、治安や公共機関のサービスや物事を処理する正確さ、文化、教育、娯楽レベルでは両国は日本に一步譲ると思われず。特に私が意外に思ったのは、世界の運命の担い手である超大国アメリカの一般市民の精神レベルが予想外に低いということと娯楽レベルも同じように低いという事実でした。未だに文盲も多いと聞いて驚いた次第です。日本人が白人

に過度のあこがれを抱いたり、コンプレックスを持つたりするのは実情を知らないからだと思います。彼等の長所と短所、日本人の長所と短所をともに理解するならば、そのような誤った考え方をしないうすむはずだと思いました。

今、私の脳裏には、澄み切った紺碧の空にそびえ立つパロマー天文台の雄姿。パロマーガーデンスのア氏が愛した緑の木々。ピスタのア財団の素晴らしい方々。オーソン肖像画のさん然たる輝き。高貴な波動の充満するア氏の寝室。灼熱下のデザートセンターでの感慨。グランドキヤニオンのあまりにも雄大な景観。古代マヤの宇宙的な名こりを留める遺跡群。カンクンの白い浜辺と緑の海。打ち寄せる潮騒の音。アメリカで会った善良で気さくな人々。メキシコ人の明るく陽気な生きざま。これら様々な思い出が駆けめぐっています。

終わりに旅行中、ひとかたならぬお世話になった久保田会長、田中正氏、アメリカのガイド、山本氏、メキシコのガイド、ヤマダ氏、それに同行の会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

メキシコの魅力にとりつかれた私

東京 宮下志づゑ

旅行から二週間以上。今思い出そうとすると、遠い昔のこの様な反面、個々の印象だけは増々強くなっていく様です。ロサンゼルス空港から降りて成田に到着するまで、異和感を全然感じさせないうちにも、接触するそれぞれの波動を受け

たからでしょうか。

アダムスキー財団を訪問した時、デザートセンターに立った時「ジョージ・アダムスキーは本物なんだ！」という強烈な想念が浮かんできました。これは、いかに自分がアダムスキー問題を頭で考えていたかの現れであって、驚きであり、ショックでもありました。ただそれにもまして、そう確信させる程の高い波動。特にあのアダムスキー財団には「真理が生きている」という感じがします。

古代マヤの遺跡。中でもバレンケの遺跡は素晴らしいものでした。バスの中で先生が、例の石棺の浮彫のポスターを見せて下さった時には、おもわず声を上げてしまいました。ただその後、この遺跡はなぜか畏怖感を伴って時々思い出されず。

今回の旅行が総じて素晴らしいものとなったのは、まわりの人達のお陰であると思います。久保田先生や田中さんのご尽力には感謝してもしきれないものですし、又現地のガイドの方がすばらしかったのもラッキーだったと言えます。そして、もう一つは一緒に参加した人達のフーリングの良さです。団体行動は大の苦手の私ですが、この時ばかりはイヤな思いもせず、リラックスした気分であらむことができました。更めて「調和力」の重要さを感じました。

最後に「メキシコにはたまらない魅力がある」とおっしゃっていた先生。実際に行くまでほとんど関心のなかった私も今はすっかりこの魅力にとりつかれてしまいました。本当にどうもありがとうございます。

ウシュマル遺跡の UFO?



①



②



● 8月24日、日本GAP旅行団がメキシコ、ウシュマルの遺跡を訪れたとき、伊藤達夫氏（愛媛県）が奥の神殿跡から尼僧院を撮影したところ、現像後に奇妙な物体①が写っていた。2機の円盤が並んでいるように見えるが正体は不明。撮影時には気づかなかったという。②はそれから五分後に尼僧院へ近づきながら撮ったもので、これにも黒い物体が写っている。正体は？

〈データ〉

アサヒペンタックスFPS / タクマー
28mm F 3.5 f11 / 1/250 / フジクロ
ーム100 / ダイレクトプリント

他人との接触が大切

新潟県 星 富治夫

今回の貴重な旅行に参加できましたことを企画者である久保田先生を始めとしてお世話くださった添乗員の田中さん、そして旅行を共にできましたGAP会員の皆様へ感謝致します。

私にとって今回の旅行での最大の収穫は多くのGAP会員の人々と個人的に話す機会を持てた……ということだと思います。

最近考えることなのですが、人間の進歩や向上(あるいは自分自身を知ること)のためには他の人との接触が重要な要素になっていくと思います。

他の人と接触することによって、その人から何かを学び、また自身のマインドについて、より知ることになりますから。(これは本を読むだけの生活からは得られない貴重な体験だと思っております。)

今回の旅行に限らず、今後もGAPの行事には積極的に参加して多くの人と知り合いになりたいと思っています。

心のふるさとメキシコ

千葉県 伊東佐和子

メキシコ市の空港でのことです。ここに波動の強い人が二人いる、と人に教えられて見てみますと、十メートル以上離れた所で二人の係員がじっと久保田先生を見つめていました。私が二人を認めた

とたん、一人がこつちを向き、彼がもう一人に向かって何か話しかけると、あと一人も振り向ききました。メキシコ市に

くる時、感じていた落ち着かない気分はこの人達に関係しているのかと思いましたが、とても印象的な出来事でした。メキシコの遺跡の中で最も素晴らしいのはパレンケです。そこにある「宮殿」はモダンな造りで親しみを感ぜました。ここを造った人は人間を愛し、人間の生活を大切にしていたと思います。どこへ行っても高貴な波動に満ちていました。

テオティワカンの太陽のピラミッドについて面白い話を聞きました。現地のガイドさんが、ピラミッドに登っている人の髪が風もないのに逆立ったのを二回ほど見たそうです。磁気的なものがあるという意見に共感しました。それについてメキシコの機械技師ゲラルド・レベットの説を思い出します。

「このピラミッドは地中のマグマにこもるエネルギーを『ピン詰め』するための装置であり、大盤の石と土砂で築いたのはエネルギー洩れの危険を防ぐためである。」

もちろん、それは進歩した他の惑星の科学技術だと思えます。

話は変わりますが、メキシコ人のささいな事にこだわらない、おおらかさは聞いたとおりでした。決して他人の悪口を言わないこと、どんな階級の人でも尊敬し合っているという事実に感動しました。これは進化した惑星の習慣を思わせます。しかし、メキシコは貧富の差が激しい国

です。大金持ちがいる一方、貧しい人はその日暮らしの生活だそうです。レストランに、ガムを売りに来た幼い子の、あの年に似合わない商売人のしたたかな目つき。今でも忘れることができません。このような社会状況の中だからこそ、重要を習慣だと思えます。この旅行では予想以上に多くのことを得ることができました。そしてメキシコは心のふるさとになりました。

素晴らしい旅を企画された久保田先生、田中さん、ガイドさん、そして皆さん、ありがとうございました。

再び行きたい素晴らしい旅

東京 元井武士

本当に楽しくすばらしい旅行でした。旅行中は終始リラックスしてかたてないのびのびとした解放感と充実感に自然とうれしさがこみ上げてきました。

私の期待のパロマー、ビスタ、デザートセンターはこの期待を裏切ることなくいやそれ以上のものをもたらしてくれました。とくにデザートセンターでの衝撃は忘れられません。眼前をまぶしく輝く太陽とともにスペースプログラムの壮大な海が私をのみ込み、一瞬気が遠くなつた程です。

主目的は達せられて気分も軽くメキシコに足を踏み入れれば、ここにも多くの発見が待っていました。メキシコではピラミッドなどの古代遺跡めぐりも私のように予備知識をほとんど持っていないでも十分に楽しめました。そしてメキシコ

を何によって感じたかといえますと、タスコの白い壁の家、イグアナ(大トカゲ)を頭上にのせた少女、入口に奇怪なドラクローマークのついた教会、街頭で口にガソリンを含み火炎を吹きあげる見せ物をする失業若らしき青年、観光客の回りを値段の一定していないガムを売り歩く少女、私の着ているTシャツを引っ張り、民芸品の灰皿と交換しようと言う青年(裸になつてしまおうのでお断りしました)。ああメキシコへ来たのだと実感しました。

再びロサンゼルスに戻り大人も楽しめるといわれるデイズニールランド、これは本気で驚くばかりでした。船りの機内では「スーパーマンII」を見ているうちに早くも成田へ到着してしまいました。こういう旅ならぜひ再び参加したいものです。

また参加したいGAPの旅

大阪府 斎藤康美

この度は、楽しい旅行をどうもありがとうございました。また先日は旅行写真と8ミリの件でお時間を頂きましてありがとうございました。もっと早くお礼をと思いつつ遅くなりました。今年海外旅行を予定していません。今年海外旅行を予定していません。今年海外旅行を予定していません。今年海外旅行を予定していません。

かっただけですが、出版記念会より帰りました。旅行中はにぎやかで愉快な毎日でした。これも先生、田中さんのお心くばりと共に、会員の皆様、米国のガイド山本さん、メキシコのガイドヤマダ

さんや、両国で親切にして下さった人達のおかげでした。反面、脱線しすぎまして、バス道中ではお騒がせしましたり、出発時間に遅れるなど、皆様にご迷惑をおかけしました。申しわけありませんでした。私自身、パロマー、アダムスキー財団、デザートセンターが主でしたので、これらを見学出来ただけでも充分でした。ちよつと残念でしたのは、財団の方々の日程が折り合わず、私達だけの夕食会でしたが、でもフレッドさんがデザートセンターまで案内して下さいましたので元気が出ました。それに十数名の方々と屈氏や山本氏を囲んで楽しく語り合えました。またグランドキャニオンの地形には驚きました。ガイドさんのお話では、谷底までラバで約五時間かかるとの事でした。

ユカタンの遺跡群も雄大で、ガイドさんの説明にも興味深い事柄もありました。各遺跡の急傾斜や階段の狭さの為に昇り降りにはまいりました。カンクンでは大方の方々と共にプールで泳いだり、海とたわむれたり、砂遊びをしたり、デイスコに行ったり、先生の泳ぎも間近で見ることが出来まして実に楽しい一日でした。

最後にデイズニールランドでスペースマウンテンの真つ暗闇でのコースターに乗りました時は気分が悪くなりまして実際まいりました。フィナーレの光のパレードと花火もとてもきれいで、見ごたえがありました。

この他にも楽しかった事も多々ありましたが、考えさせられました事や反省す

べき事も多々ありました。その意味でも参加して良かったです。無事旅行を終えた事が出来まして、先生、田中さん、会員の皆様には感謝の気持ちで一杯です。どうもありがとうございました。旅行中の二週間は長く感じましたが、帰国後はや二週間が過ぎてしまい、早くお礼をと思いつきながら遅くなりまして、大変申しわけありません。また先生と田中さんの企画によります旅行に参加出来ればと思っています。本当に素晴らしい旅でした。ありがとうございました。

郷愁のユカタン半島

沖縄 新里義雄

奇妙な感じが起こつたのは成田空港をロスアンゼルスへ向けて飛び立つて間もない機内での事でした。私が今こうしてこのすばらしい方々と共にこの重要な旅に参加している事が、私の意志でこうなつたのではないような気がして、とても奇妙でした。

今度の旅行は確かに奇妙な体験の多い旅でしたが、その中の一つだけを紹介したいと思います。

タスコ市へ行った時の事です。ドゥビオンという名のホテルのレストランで昼食を取つたあと、私達はガイドのヤマダさんの案内で、あるカトリック教会を見学するのために全員徒歩で出発したのでありますが、その時私はガイドのヤマダさんと並んで歩いておりました。町中を十分も歩いた時だつたでしょうか、住宅地城のある一角にさしかかつたとき、私にはこの一角

に見覚えがあり、見覚えがあると云うよりも知っているという感じでした。今思い返せば夢予知であつたかもしれないと思ふのだが、何とも表現しようのない気持ちでそこを通り過ぎて二三分ほど歩いたところで、どうも気になつてしかたがないので、ヤマダさんにその事を話し、私はもう一度その場所へ引き返し、角度を変えてカメラに四一五枚おさめました。そのためにずいぶん遅れを取つてしまつた私は、はじめて自分がその教会までの道筋を知らないことに気づいた。しかし例のレストランのテラスで町の風景をながめていたときにその教会の方角をつかんでいたので、急ぎ足でその方向への道筋を選んで歩いた。汗をかきながらやつとたどりついた時にはもう皆さん全員が教会の中へ入つて見学しているところでした。(中略)

ユカタン半島では郷愁をすら覚えた。私の郷里の人々にあまりにも共通した外観を持つている。私も幼い頃は半分は裸で、焼けつくような路面を、さほどあついても感じないで歩き回つたものだ。ハンモックに寝た経験はないが他はほとんどこの生活に酷似していた。今度の旅行の参加者の中でも、私ほどに彼等から親愛の目差しを持つて見つめられた人は居ないだろう。しかし彼等の私に対する親しみの感情よりも私の彼等に対するそれの方がはるかに勝つていたので、彼等の色の黒さは私のそれに勝つてはいない。確かにこのユカタン半島の遺跡に行つても、私は私達のグループやその遺跡の主人公であつたと思つている。皆さ

んより前方に出て、又は後方においてひとりポーンと両手の掌を打ち鳴らし各遺跡のくもし出すオーケストラを指揮するのは、いつも私だつたのだから。

この旅行が私にとつてこれほどまでにすばらしかつたのは皆様方の高次を思いやりによるものであることを私は痛感しています。成田空港での最後の時ほど別れというものをいやなものだと感じたことはありません。なんとも別れ難い方々でした。

私にこの旅行が実現したのは、田中さんをはじめ、特に久保田先生の御力添えがあつたことを私は痛感しています。ありがとうございました。

仲間のやさしさに感謝

兵庫県 渡辺貴子

旅行を決めた時、自分にとってアメリカへ行くのが必要ならば、時間もお金も自然に与えられると日頃から思つていたので、特に飛び跳ねて嬉しい気持ちはありませんでした。そして行くまでの間が長いので、本当に行くのかとか、私自身とつてもものぐさで、アメリカへ行くのも面倒だとか、当日成田でも、の勝手な思いがあり、今が帰国しているのだつたらと思つていました。

でも行けばやかましくはしゃいでいました。同じ行くのなら皆と楽しく行きたいものと思ひながらアメリカへ到着。実感はなく自然に入つて行きました。私はドジなので旅行前にせて皆には迷惑をかけるまいよと思つていたので、皆さ

さんがやさしい人達で甘えていたせいから東京へ行く時から帰宅するまで、毎日のように迷惑をかけていました。パロマーガーデンス、天文台、デザートセンターは別に感じることもなく、天文台は思ったよりも大きいと思う程度でした。本部の時は行く前から何だかとても親しい人達に逢いに行くような感じだったので、気楽に行きました。本部へ着いてバスを降りた時、ガツクリ。それはすばらしい雰囲気、植物も生き生きとしているものと思っていたからです。本部へ行くこと、さつきよりも植物が生き生きとしていたものの何となく元気がないような？でも部屋の植物はまだ元気な感じがしたので安心しました。フレッドさんとマーサさんに逢ったとき、イメージ通りお友達に逢ったみたいでした。そしてなぜか緊張という言葉はあってもすぐにリラックスしてしまふ様な雰囲気でした。私はだんだんと楽しくなってきた、質疑応答の時も、地声で笑い出したくなって一方の心に心の中で植物に話しかけ、おさえました。本部の人全員には逢えなかつたけど、必要なら逢えると思っています。

カンタンからロサンゼルスに戻る時、一日がかり。その日朝から調子が悪くついに熱を出してしまいました。でも一日で治り、徹夜同然に看病して下さった佐々木さんはじめ皆さんに迷惑ばかりかたてすみませんでした。そしてありがとうございます。

GAPツアーが最も印象的

米ロサンゼルス 山本 博

先生からお手紙と写真を受け取りました。本当にありがとうございます。僕にとりまして、今年のツアーの中でGAPのツアーが最も印象に残るものだと思っています。何よりも目的意識が固く全体のまとまりがよかったです。非常に何事も順調に進んだと思います。僕の方は久保田先生や会員の方々からたくさんのお金を学ばせて頂きました。会社からこんなありがたいことはないと思っています。来年のツアーを本当に楽しみにしていますので、ヨーロッパ地域ではなく是非アメリカ地域の方を選んで頂きたい気持ちです。

私共の職業の利点は、あらゆる職種、業界の方々とお会いするチャンスをつかむことができることです。そしてこのGAPのツアーは僕にとって良き経験をさせて頂いた上に、親しい友人ができた気持ちです。欲を言うとも来年も必ずアメリカを選んでいただきたいツアーです。勝手な話なんですけれども、先生のお話ですと来年中に再度アメリカにいらつしやること、できましたら是非ご連絡下さい。

田中さん、それからGAP会員の皆様によりよくお伝え下さい。簡単ですが、先生からのお手紙と写真のお札を再度させて頂くこの手紙を終えます。(山本氏はロサンゼルス在住のガイドです。GAP旅行団がお世話になった方です。)

南国の旅 沖縄支部大会

■日本GAP沖縄支部結成記念
第1回支部大会を開催！ 南国
の情緒豊かな沖縄で真剣な支部
会員の方々と交流し激励し合う
絶好のチャンスです。多数ご参
加下さい。3泊4日で島内観光
も行います。

●旅行期間 昭和58年5月2日より
5日まで。(連休4日間を利用)

●所要費用 7万円台の予
定(若干の変動があるかも
しれません)。往復航空運
賃・3泊の宿舎代(朝食
付)・現地車代等を含む。

●航空券申込先 〒150 渋谷区東3-24-9サウス
トビル2F ワールドセ
ントラベルKK 田中正宛2
月末までにハガキでお申
込下さい。案内書をお送
りします。



日程

5月2日(日) 羽田発。那覇着
後市内観光。同夜那覇市内泊。

5月3日(祭) 那覇より沖縄市
へ向かい、沖縄支部大会に出席。
(プログラムは39頁を参照)
同夜は沖縄市内泊。

5月4日(火) 北部の海洋博記
念公園、名護ビーチその他を觀
光。同夜名護市内泊。

5月5日(祭) 午前中沖縄市觀
光、午後那覇市観光。夕方那覇
空港発。帰京。

*この旅行は当初団体旅行として企画
しましたが、5月の連休は全国的に沖縄
観光ラッシュで飛行機・ホテルの予約
が殺到し、すでに多数の団体が満員の
状態ですから、団体扱いが困難になり
ましたので原則として個人旅行とし
ます。しかし航空券の購入のみはワ
ールドセプトラベル社で代行します
から同社田中氏宛早目にお申込下さい。
ただし申込人数分を購入してごめ
なさいますからその点ご了承下さい。
個人で航空券を購入してもかま
いません。宿舎は現地のGAP
会員宅に分散宿泊し、観光用
の車は現地会員が提供します。
したがって現地では団体行動
となります。個人で航空券を
購入した方は必ずフライト番
号と出発時間を田中氏宛にお
知らせ下さい。

日本GAP



楽しかったアメリカでの交流

米カリフォルニア州 融 民興

お便りをするのが遅れて、まことに恐縮しております。旅行同のお世話にお疲れのことと思います。ロサンゼルス、ビスタと大変お世話になりました。いろいろなお話も聴くことが出来、有意義な時を過ごさせていただきました。通訳というものはたいへんであり、まだまだ語学の勉強が足りないことを山本君と二人痛感させていただきました。

GAPなしでは考えられない

米カリフォルニア州 山本泰司

こちらは大学の夏期授業も終え、ほっとしているところです。このあいだのGAPの旅行にみなさんと一緒にさせてもらいました。ほんとうにどうもありがとうございました。ほんの二日間ではありましたが、みなさんと話し合い、久保田先生とも

話し合え、これからの私の生き方についてよく考えさせられるところもありました。非常に有意義な二日間でありました。

私はGAPの会員ではありませんが、これからの私の生活の中において、GAP抜きには考えられませんが、またこれを土台としてもっと精神的な向上をはかるべく努力していく決心です。このGAPを知ったきっかけというのは、アメリカでの脳氏(GAP会員)との出会いに始まり、カリフォルニア州立大学の図書館で、G・アダムスキー氏の「Living the Space Age」(彼のサイエンス)の本を見つけたこと。また「生命の科学」「テレパシー」、そして「宇宙哲学」と読み返しては、日常生活に應用すべく努力している次第です。これらのことを私の父に報告したところ、是非その本の内容を知らせてほしいというので、今は父と一緒にこのすばらしい宇宙哲学を實踐しようとするところです。これからの久保田先生のご活躍を期待しております。

素晴らしい総会

埼玉県 辻 康昭

天高く馬肥ゆる候、先生、ボランティアの皆様にはいかがお過ごしでしょうか。不屈の信念をもってがんばっていらつしやることと思います。さて、先日の総会の大成功おめで

とうございます。各支部代表の方々の体験談等、また先生のお話を聞かせていただき、自分にもあてはまることが多々あり、ますますアダムスキー氏がわかりやすく解説された宇宙の法則の裏、探究に邁進してゆこうという気が高まり、有意義な一日でした。また「二〇〇一年宇宙の旅」を初めて拝見させていただきましたが、相当高次元の哲学の映像でいたく感動し、創造主の偉大さにつくづく感謝している次第です。また総会後の立食形式の大夕食会の席では会員の方々と談笑しまして、貴重な体験談などを聞かせていただきました。大変勉強になりました。

話を聞いて感じたことが少しあります。総会とが例例会に参加している時は、日頃の苦痛は解消されるが、いったん社会に戻ると排他的になって、アダムスキー哲学を精神安定剤のようなものにしてしまっている。また自分から進んで仕事に対して奉仕の気持ちで本当に真剣に取り組んでいる人が少ないような気がしました。これはいままでの宗教があまりに都合よく参加している時は、取り敢えず精神的苦悩は軽減され、深遠な意識的精神状態に転換が、結局は自分の心をその団体とかに依存させていることになる。これでは自分の魂が窮屈ではないか。アダムスキー氏が簡約されて、世間に公表された宇宙哲学を理解していない人が意外と多い(自分もそうかもしれぬ)ことを痛感しました。また自分にとってもこういうことを悟ることができました。今日はいいレッスンになりました。

何か先生の参考になればと思います

してペンをとりました。GAP活動のますますの発展を祈ります。先生もお体に気をつけて、アダムスキー哲学の啓蒙促進活動を始められた初期の気持ちにかえって、がんばって下さい。

総会の大成功を祝う

広島市 近藤久美子

米、メキシコ旅行に引続き、日本GAP総会が御苦労様でした。大成功に終わりましたこと、心よりお慶び申し上げます。

私はGAPに人会させて頂き、まだ一年足らず……半年間はつまらぬことに悩み、実際には昨年三月に松山支部大会で先生や会員の方々の素晴らしい波動で目覚めた感じですが、それから旅行、そして総会と、私にとってはなくてはならないレッスンだったと思います。まだまだ皆さんの足元にも及びませんが、皆さんの前向きな姿勢に触れ、沢山のことを教えて頂きました。また、GAPの輪の中にまぎれることにより自分を美化していることにも気付きました。それぞれの個性があるように私自身も目的を踏まえて、頑張つて宇宙に向かっているかと思っています。

初めて見る「二〇〇一年宇宙の旅」息もつかせぬ壮大な宇宙を舞台にしたの転生の物語。進化論を出したあとの大逆転……神の創造と人間の創造。対比がとてつもなく感動的でした。また、HATの音動は私のエゴを描き出されたようで恐ろしい感じがしました。

る皆さんの顔を見ていると、なんだか私まで自然と微笑んで幸せ一杯な気持ちになつてくるのです。必要なものは与えられるといいますが、こうして大勢の素晴らしい方々に接して感謝の気持ちでいっぱいです。とても楽しかった有意義な二日間を有難うございまして。このレッスンを今から日々の生活の中に生かして進歩していきたいものです。

得ることの大きかった総会

広島市 佐々木朋子

先日は総会に参加させていただきました。誠にありがとうございました。先生はじめ、日頃お会いすることのできない遠くの熱心な会員の方たちとお会いできて、本当に嬉しく思っております。

また、先生が御講演の中で私のような者のことを例にあげてお話しくださったこと、大変恐縮しております。まだまだ自分へのきびしさが足らず、ついつい安易な方に流されてしまう私ですが、山口緑さんのご講演を聴き、目が覚めたような気が致しました。本当に私にとって得ることの多い総会でした。

人との出会いがその人の生き方を決めるとよく言われますが、まさに私たち二人にとって久保田先生がGAP活動を続けて来られたことによつて、先生や素晴らしい会員の方たちにお会いすることができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。怠慢な私ですが、皆さんを見習ってほんの少しずつでも自分を向上させるよう頑張つて行きたいと思っております。どうぞこれからもよろしく御指

導下さいませ。

宇宙的人間を志向

広島市 佐々木智子

先日は総会と夕食会に参加させていただきました。先生のご講演は短時間ながらも大変力のあるもので、あらためて信念の大切さを痛感致しました。

私自身、自分を宇宙的な人間にしようと思いつながら、反面では向上への地道な歩みを怠ってしまっているのに気づき、自信を無くしそうになることが度々です。特にマインドが他人への不満、嫉妬、憎悪などを起こし、荒れてしまう時など、これまで自分にはたしてほんとうに宇宙哲学を理解しているのだろうかと思いに悩んでしまうこともあります。でも今はこんなに未熟だけれどいつかは宇宙的な人間になるんだ、そしてその基礎を今築いているんだ、と考えるようにして、焦らずに進んでいきたいと思うようになりました。どうぞこれからも宜しく御指導下さいませ。

(佐々木朋子・智子さん姉妹は双生児の熱心な会員です)

意義深い総会

京都府 柳屋隆弘

お元気で毎日お暮らしのことと申します。今年度の総会ではいろいろと意義深い発表を聞き、良い学びを得たと思っております。また大夕食会では楽しく語り合っている友人達の姿に感激さえ感じていました。とて

も幸せな一日であったことを忘れません。

十一月例会は行く予定でしたが、いろいろとあり、東京例会に参加できなくなりました。先生のあたたかなハートと握手は忘れません。

心とはいってもイタズラなものです。胸のやすらぎを感じるならば、感じられないエゴを感じるひとつひとつ、いかにも私の本当の思いであるかのように遊び出すのです。ひとつの経路として存在していた経路という理解力は、もうひとつの変遷された想念とチャンネルで眼の知覚に対して、味覚は我思うことこそ真実なりとばかりに語るのです。時にはこの味覚は感覚であつたりします。エネルギーシチュエーションは、やすらぎの経路を破壊していくようにも今の自分には感じます。一方はやすらかな思いであり、また一方は欲にかられた思いなのです。その二つを感じながらどうすることもできないで、もともとでき上がったくない思いを語ろうと必死になる欲望はしかたのない心屋さんです。今日十月三十一日はどうとうカゼをひいてしまい、鼻声を語ることになつてしまいました。こんな時空間の音の伝え手達はどんな感動を受けるのでしょうか。あまり良くないことはいえそうです。

では先生、皆様、健康にはくれぐれも注意され、幸せ多き毎日をお過ごし下さい。

アダムスキーは人生の道標

仙台市 佐藤喜代子

私は一般の人以上に凡人なのですが、GAP問題はどうしても無関心

でいられなく会員にしていたきました。もう四年にはなると思っています。まさにこの世は虚偽の世界だと思えますが、現実生きてゆかねばなりませんので、心の安定を保てるようにバランスを考えて、あまり必要以上に神経質にならずに宇宙哲学の実践を勉強してゆく姿勢も大切と自分に言い聞かせておりました。

アダムスキーの著書類を初めて読んだ時は何か言葉では形容できない、これまで探求求めていたものにやつと巡り合ったような、人生の道標がパツと照らし出された感じでした。そして一言、まさに天空から響いてくる言葉そのものでした。そしてつと早くこの本を知りたかつたと思えました。中学生位の時にも思いました。でもそう感じただけでは駄目なのです。そこがアダムスキー哲学のむずかしいところなんです。私などは何かをつかみ始めたかなあ、という段階で本当に靴ずかしいのですけれど、すばらしいGAPの会員の皆様の最後の方からでも、一歩ずつ歩いて行きたいと思つておりました。

アダムスキーの著書類をお訳しいただきました久保田先生、そして日本GAPの会長でもあられます先生に心より感謝申し上げます。

自由と調和を

吹田市 木村壽子

昨日仕事の帰りに事務所の横にある公園をぬけて通ろうとしましたら、小学生の女の子が二人、ランドセルを背負つて公園をぬけようとしていました。風がサーッと吹いて、ブ

ラタナスの葉とか、かえでの葉とかがパタパタバツと舞い落ちて、二人の女の子の上をくるくるかきながら夕日に黄金色に輝いてとてもすてきでした。一時立ち止まつて天のなしたまう美に感動を覚えました。その光景は一枚の絵のようでした。

私が自然に対して深いよろこびを感じるようになったのは、やはり宇宙哲学を志すようになつてからです。それまでも、もともと田舎育ちとして、自然の中で意識せずにそのやさしさ、都会人の自然離れした生活ぶりや考え方にびつくりしながら自然を恋しく感じたものでした。私達は自然を観察することによつて、そこから学ぶことがたくさんあるのですが、私はいつも自然の姿を唯一の浄化の場として神々からの贈り物と思われたいです。

日本GAPのいろいろなうわさを耳にすることがありますが、私は自然のようでありたいと思います。人間ひとりひとりの言ふことに振り回されていたら、体がいくつあつても足りないでしょう。不屈の信念とより良い柔軟性が必要と思つています。今一度個人個人が自身の出発点を足元から洗ひをおしてみる時期ではあるまいか、という気がしてなりつづけ。そして互いに自由を謳歌しつづ調和するのが良いと考えます。ちようど家族がうまく調和しながら個人としても研さんするように。しかし、これこそ、和して同ぜず」と先生から頂いた手紙に書かれていた難しい課題なのでした。どうもこの

世界では、わずかでも自分との意見の違いを見ると敵対視する向きがあるようです。特に宇宙哲学を志す同志でほどそれがひどいのが現状ではないかと感じていることも多々あります。きびしさもなく、やさしさもないのが当然ですが、その両面をうまく使いこなすやさしさをみんな持つてほしいと思つていきます。

アダムスキー氏から教えられたものは、いろんな角度からみて調和のとれたものであるのです。どちらか一方のみという見方は理解され得ないものだと感を持ちます。どうか日本だけでなく、世界のGAPあるいはそれ以外の方々も、宇宙問題を論ずるすべての人々が互いに自由でありながら調和のとれた想念を持たれることを願うものです。日々折つてやみません。先生もお体を大切に頑張つて下さい。私もいろいろありましたが、一歩一歩ゆつくりと頑張つてゆきます。主人ともやつと一体であると感じられることが多いの頃です。ではまたお便りします。

奇跡を起こす男になろう

静岡県 高梨和明

小生は十年以上日本GAPにお世話になり、本当に救われました。運命がだんだんだんだんよくなつていくのです。久保田会長には感謝、感謝の念が尽きません。小生が久保田会長を「地球屈指の人物」と思つているのは本当のことです。アダムスキー氏、そして久保田会長は必ず後に偉大な人物として名をつらねると確信しています。それにしても久保田会長の日本G

APのトップとしてのご苦労は大変な事と存じます。「ひとり」でやらねばならない、そして全責任を果たすには身をすりへらしてははるかに及ばない絶大な信念を要する仕事。それを会長はやってこられた——。(それをわからない人がいる。困ったものである。)

しかし会長は最近のいくつかの出来事ものりこえて、総会の壇上に立たれた。小生は会長のお話やお姿に非常に感動いたしました。会長は壇上に、「あなたがたは、奇跡を起こす男に、奇跡を起こす女になりなさい」と強くご教鞭なさいました。なんと偉大な言葉だったでしょう。小生もなんとかして「奇跡を起こす男」になります。会長どうぞ今後もよろしくお願い致します。またの機会にて会長の本当に楽しいお話をお聞きすることを、少年のように願っています。

旅行に参加したい

三重県 池谷由貴子

お元気でしょうか。私はとても元気です。先日は旅行案内書と共に励ましのお手紙まで送って頂き、本当に有難うございました。私たちは宇宙哲学を基礎に頑張っています。この教えを私たちに伝え、いつも激励して下さい先生に心から感謝しています。先生もお体に気を付けて頑張ってくださいね。

来年の神縄支部大会や海外研修旅行に参加しようと思っております。心な素敵な計画を立てられている先生は、心の中に素敵な夢をたくさんお持ちになつておられるような気がします。

素敵なことだと思えます。では先生のご健康とご幸福を心から祈り致します。

宇宙人間への指針

東京 松村芳之

先日、十二月の月例会でのご講演を大変有意義に聞かせて頂きました。先生が二十年以上も長期にわたってGAP活動をされましたことは、現在の日本GAPの会員の方々や私を、アダムスキー哲学のいう「宇宙人間」になるための素晴らしいバイブル的存在に導いて下さったものと思います。とても「感謝」「尊敬」という言葉では表せないくらいです。

月例会には昨年の五月から毎月出席させて頂いていただいております。出席を重ねるごとに会員の方々の親睦が深まっています。同じアダムスキー哲学のもとに集まったGAP会員の方々の会話は、とてもとても素晴らしいものです。そして現在の私、未来の私は、「アダムスキー哲学」「GAP活動」の存在をなくしては考えられなくなりそうです。

素晴らしいかった
十二月の東京月例会

山形県 清水 正
（山形支部代表）

十二月の東京月例会に参加して皆さんと久しぶりにお会いしたり、久保田先生の講演や静岡支部の野口氏、小島氏の話を聞く機会にめぐま

して大変感謝しています。今年の最後のしめくりによさわしい素晴らしい内容でした。

実践といえどもなかなかできないのが実際のところ。それを先生がこうなんですと示してくださっているのがミラクルワード、ミラクルイメージなんですね。こういった実践の生の体験談としての小島氏の奥さんの出産に際しての奇跡的現象には共感するものがありました。野口さんからは毎回役立つヒントを与えていただいております。このたびも話すこと一つひとつをメモにひかえさせてもらうほどでした。信念を實踐することには私もこれから応用の必要を感じています。先生の講演で初めてハレィ・隼星と地球について重大な話を聞かせていただいていたおりました。久しぶりの東京月例会の参加で、また一大奮起していくつもりです。

残念なこと十二月の東京月例会終了後の忘年会は、翌日が山形支部月例会のために参加を断念せざるを得ませんでした。本日に参加したかったのですが、しかたないこととあきらめました。先生にもお話ししましたが、山形支部月例会の毎月第一日曜の変更も考えてはおりますが、山形支部の少ないメンバーでそれ以外では都合がつかないという話もあり、当分現状でやることにしました。山形支部月例会は十二月六日に、参加者六名で開かれました。前日の東京月例会の話や、近況報告など其剣を話し合いが行なわれました。特に仙台の石田さんは毎月のように山形に応援に来て下さって、このたびは熊本支部大会の模様を報告して

いただきました。テレパシーの練習はどうもメンタルレバシーよりも、誰も想念を発する人を決めない透視の方がこれまでも成績が良いようです。これはいろいろな推測が働くためではないかと思うのですが、透視の場合はあまり心がさわがずに素直に印象を感じていているようです。とにかく今回も結果は良好でした。例会は月一回の研究の場でもあり、親交の場でもあると思いましたが、今回はトランプで神経衰弱といって真がえしにしたカードを合わせてゆくゲームをして、楽しいひとときを過ごしました。

ニューズレターの前の号を改めて読み返してみますと、考えも新たに新発見、理解等があります。このたびは58・59号を読みました。何と先生の言われていることがこの号のすべてにあり、今もあまり変わっていないことや、先生こそ本心に信念をあくまでつらぬいている証人だなあと感じております。59号では最近よりも意味深い内容で満たされ、新鮮です。現在までの人の心変わり、と先生という対比で思いますと、とても奇妙な、なぜか重大さを感じさせられます。巻頭言「烈日」の中でまず気づいたのは、常々先生がポールシフトで言われている東大の教授でした。ちゃんと名前がでてい

たが、先生は寛大な方ですね。他人をやるにほめてるように感じますが、59号の「さらばニューイングランド」の中では大変貴重な、重大きわまりない話がありました。もうこの時点でアメリカでのアダムスキー派の間題点を知っていたと思うのですが、いかがでしょうか。はつきりしたこととはわかりませんが、先生はとも寛大ななと思えました。

来年のGAP総会ではアリス・ボマロイ女士を招待しませんか。彼女もいつか日本に行きたいと言っておられました。なんだか願いにも似た気持ちになってきました。日本GAPになにか良い物語を残してくれような気がします。勝手なことを書かせていただきましたが、これからもご活躍ください。(清水氏の敬意に敬服します。編者)

解説「テレパシー」第3部出版

1980年度東京月例会における久保田会長による「テレパシー」解説講義のトランスクリプト。
(第1部、2部は好評売切れ絶版)

第3部 B5版 活字タイプオフセット印刷
¥700 千240

ご注文は下記へ直接どうぞ。
〒989-16 宮城県栗田郡栗田町大字本船泊字
内沼田98-2 安藤澄雄 総管山台30019

は本心に偉大な人であったなあと強く深く感じております。先生は寛大な方ですね。他人をやるにほめてるように感じますが、59号の「さらばニューイングランド」の中では大変貴重な、重大きわまりない話がありました。もうこの時点でアメリカでのアダムスキー派の間題点を知っていたと思うのですが、いかがでしょうか。はつきりしたこととはわかりませんが、先生はとも寛大ななと思えました。

主要訪問地紹介

■**カイロ** エジプトの首都でアフリカ大陸最大の都市。新市街と旧市街とに分かれており、旧市街には約300のモスク(回教寺院)があつてミナレット(尖塔)が林立し、住民の多くはガラベイヤという長い民族衣裳を着て独特なエキゾティシズム(異国情緒)に満ちています。ここを基点としてギザ、サッカラ、ルクソール等の遺跡を見学します。

■**エジプト博物館** ナイル川東岸のナイル・ヒルトンホテルの近くにあり、先史時代から古・中・新王国時代、グレコローマン期に至るまで10万点以上のぼう大なコレクションを蔵する世界最大クラスの博物館で、特に2階東側のツタンカーメン王の部屋が圧巻です。その他ミイラ室等もあり、必見の場所です。

■**ギザの3大ピラミッドとスフィンクス** カイロ市内から15kmの所にある3大ピラミッドはあまりにも有名で、考古学上では王の墳墓とされて、スフィンクスの正面から見て右よりケオプス(クフ)、ケフレン(カフラー)、ミケリヌス(メンカウラー)の3人の王の名で呼ばれています。最大のもはケオプス(クフ)王のピラミッドで、底辺230m、高さ137m。ケフレン(カフラー)のピラミッドの内部トンネルへ入って玄室も見学します。夜間は各ピラミッドに美しい光を照射する素晴らしい「光と音のショー」が行われ、オプションによりこれも見物します。

■**サッカラの階段状ピラミッド** ギザからバスで約1時間のサッカラにある階段状ピラミッドはエジプト最初のピラミッドで、第3王朝のジェセル王の墓とされ、宰相のイムホテプが建立したもので、ギザとは違って静寂な大砂漠の中にいちまつた憂鬱をたたえて屹立しています。

■**ルクソール** カイロから700km南方のナイル河畔の古都テーベの大遺跡で、カルナック神殿、ルクソール神殿、その他の神殿が大石柱群によって形成され、威容を誇っています。いずれも歴代の王が寄進して増築したもので、巨石に圧倒されます。カイロから飛行機で行き、ルクソールに1泊しますから酷暑にも疲れず、見学時間も充分にあります。

■**王家の谷** ルクソールからナイル河を船で渡って西へ5km行った大岩盤地帯。古代の王たちはここに地下の大墳墓を建設し、現在までに発見されたものは64ありますが、特に有名なのはツタンカーメン、ラムセス2世、セティ1世、ラムセス6世らの墓で、これらの内部を見学します。付近にはハトシェプсут女王の葬祭殿もあり、これは高い岩山を背景に女王の寵臣セムトウが建築したもので、この壮麗な神殿は古代エジプト建築の傑作のひとつとされています。

■**リスボン** ポルトガルの首都で、近代的な面と中世の面影を残すムーア風の異国的な情緒をたたえた異色ある都市です。エドアルド7世公園を中心に聖ジョルジェ城、コメルシオ広場、ロッシオ広場その他の見所が沢山あります。リスボンでは1泊します。

■**ファティマ** ヨーロッパでは知らぬ者のない一大聖地なのに日本では全く知られておらず、したがって日本人はほとんど行きません。リスボンから130km北東のこの町は1917年にルシア、フランシスコ、ジャシタの3名の子供が貴婦人の姿を見たり、7万人の大群集の眼前で巨大な円盤が空中に出現したりして、世界的に有名になりました(詳細は久保田八郎著「7つの謎と奇跡」(主婦の友社刊)の「ファティマの謎の太陽円盤」を参照)。奇跡が発生する(たとえば難病が治る)世界3大聖地のひとつであるファティマへはリスボンからバスで行き、見学後1泊します。

■**マドリード** 闘牛とフラメンコで代表されるスペインの首都マドリードは南欧の陽光が降りそそぐ情熱の都市で、エルタ・デル・ソルと呼ばれる中心部の広場、スペイン広場、王宮、プラド美術館その他の見所が沢山ある美しい町です。1泊して2日間にわたりゆっくりと市内見学をし、夕方は各自自由においしいスペイン料理を賞味して下さい。

■**トレド** マドリードの南約70kmの地点にある古い石造都市で、6世紀以来約1000年間ここがスペインの首都でした。高さ実に90mの大鐘楼がそびえるカテドラル(大寺院)は11世紀の創建になるもので、町全体が中世そのままの姿を伝える史跡の古都です。ここはマドリードからバスによるオプション・ツアー(希望者のみのツアー)とします。

■**バリ** あまりにも有名なこの花の都は史跡と美術の都市でもあり、また最新のファッションの源泉として日本人は必ず訪れるべき素晴らしい首都です。ここに2泊し、24日の午前中は市内見学についてやしてサクレクール寺院、ノートルダム寺院、エッフェル塔その他の名所を歩き、午後は自由行動にしますからプチックなどで好きな買物ができます。夜は各自で本場のフランス料理を存分に味わって下さい。

■**フランクフルト** 西ドイツ経済の中心地で、毎年春と秋に見本市が開かれますが、西ドイツの玄関口ともいえる巨大な空港があり、ここへ着陸します。近郊のハイデルベルクの古城見物やライン川下りの基点になる大都市で、バスで市内を見学します。

■**ハイデルベルク** フランクフルトの南方約85kmにある古城と大学で有名な古都。山腹に13世紀以来神聖ローマ帝国のラインランド地方選挙侯の居城であった優美なルネッサンス風の城跡があります。ハイデルベルク大学はドイツ最古の大学で1386年に創立。昔はビールと恋と歌が渦巻く奔放な学生生活で有名な町でした。城からはネッカー川の流れが見渡せます。

■**ライン川下り** ライン川は伝説と詩に満ちた1,300kmの大河で、スイスのアルプスを源としてドイツの主要都市を通過し、北海に注ぎます。いわゆるライン河下りはマインツからコブレンツに至る区間で、広漠たるブドウ畑や古城などが見られ、伝説とハイネの詩で名高いローレライの岩がハイライトで、ここを通るときは船客が各国語でローレライの歌をうたいます。船は大きな客船で内部は立派な食堂になっており、芳醇なドイツワインやドイツ料理を賞味しながら美しい風景を眺望します。

■**ローマ** “永遠の都”といわれるイタリアの首都ローマも2000年の歴史と伝統が脈打って大理石の遺跡群に満ちています。コロッセオ、フォロロマーノ、パンテオン、トレビの泉、カラカラ大浴場跡、パラティーノの丘その他の史跡がありますが、なんともいって見のがせないのはバチカン市国の世界最大のサンピエトロ大寺院です。イエスの弟子だった聖ペテロが開祖で、16世紀から17世紀にかけて着工完成した壮麗な高さ132mの大ドームその他の建築はミケランジェロ、ベルニーニその他の巨匠の手になるもので、本堂内はイタリアルネッサンス及びバロックの国宝級美術品が充満する芸術の殿堂です。

この旅行は他社の海外団体旅行の3倍分に相当する豊富な見学先を含んでいます。したがって他社なら総費用は80万円台になるはずですが、この企画では事務的な価格にして多数の方のご参加が容易になるように努力しました。このような豪華な海外研修旅行が安い費用で行けるのは日本GAPの企画で実現するだけです。

同行者紹介

●旅行団長
久保田八郎

1924年生。島根県出身。慶大文学部卒。UFOと宇宙哲学の研究グループ「日本GAP」を主宰。毎年海外研修旅行を企画。ノンフィクションミステリー研究家。訳著書にジョージ・アダムスキー「宇宙からの訪問者」(ユニバース出版社)、久保田八郎著「7つの謎と奇跡」(主婦の友社)、その他多数ある。

●添乗員
田中正
1944年生。東京都出身。1968年より3年間ドイツに留学、ゲーティンステュートエイトで学び、その後イギリスに1年間在住して帰国。数社の旅行会社を経て現在はワールドセブントラベル社の営業次長。海外団体旅行のベテラン添乗員。

エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅



〔永遠の謎と神秘に包まれた古代エジプトの大遺跡へ！
うるわしきヨーロッパの各都市の古き面影を求めて！〕

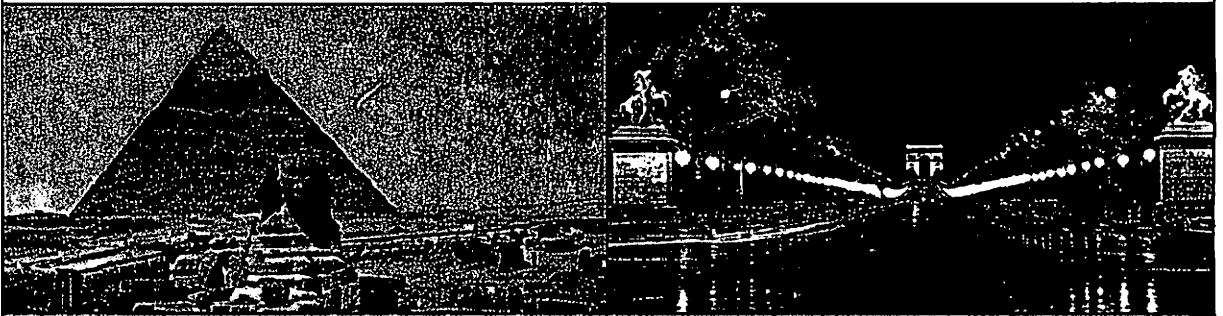
日本GAPは年次企画として過去3回にわたり海外研修旅行を実施しましたが、1982年（昭和57年）8月にも企画第4回目のエジプトとヨーロッパを周遊する素晴らしい旅を旅行することになりました。ふるってご参加下さい。

まず最初にエジプト入りしてギザの3大ピラミッドを皮切りに謎と神秘に包まれた地上最大の巨石文化遺跡群を視察し、そのあとポルトガルの首都リスボンと謎の太陽円盤出現地として名高いファティマを訪問。続いて美しいスペインの首都マドリッドへ行き、フランスは花の都パリで2泊してヨーロッパ文化のエッセンスにひたり、更にフランクフルトから西ドイツへ入国してハイデルベルクその他の景勝地を巡遊後、船でライン河を下りながら天下の絶景を眺望し、最後はイタリアの首府ローマで古代の名高い遺跡を見学して、6カ国をめぐる大旅行を満喫しようというものです。

名コンビの久保田八郎と田中正が豊富な海外旅行の経験を生かして企画した手作りのこの旅は日本GAP独特のもので、費用・内容において他社の追随を許しません。しかも毎回のGAP海外研修旅行団は他の旅行団にみられないほどの調和と友情に溢れて、現地のガイドさん方から絶賛を博しています。今回も多数ご参加の上、感動と歓喜に満ちた日々をすごし、生涯忘れ得ぬ思い出を残して下さい。

旅行中は久保田とベテラン添乗員の田中が同行して親身のお世話をし、現地では優秀な日本人ガイド（予定）が案内します。早目にお申し込み下さい。

旅行団長 日本GAP会長 久保田八郎



旅行期間 昭和57年8月15日～8月29日（15日間）

参加費用 ￥638,000（分割払い可月々約28,000・24回）

案内書 カナダに於て第4回海外旅行案内書送付
記しで下記へお申し込み下さい

〒133 東京都江戸川区本一宮町365-8118 日本GAP

企画 目 本 G A P

主 催 株式会社トランベル日本

協 賛 ワールドセラントラベル株式会社

●十一月二十二日(日)
午後一時～五時半

●熊本市 法華クラブ会議室

●参加者 四十四名

ニューズレターで予告された通り、第四回日本GAP熊本支部大会は十一月二十二日午後一時より五時半まで熊本市内の「法華クラブ」にて開催され、四十四名の参加をみて成功裡に終わりました。

前日二十一日は空路より着かれた久保田先生と山口氏をかこんで午後六時半より歓迎会がもたれました。会場は熊本市内の新市街の料理屋。集まられた会員諸氏は九州各地からの他に北海道の大橋さん、吉田さんをはじめ、東京の宮下さん、千葉の鈴木伸一氏、群馬の服部氏ら三名、松山の伊藤氏ら三名等(全員で二十数名)久しぶりの再会を喜ぶ人たち、初対面の人たちと、とにかく借じられない位にぎやかな会合でした。二次会は熊本支部の中島氏の案内でスナックに行き歓談。ホテルに先生方を送つたのは午後十一時頃でした。

翌日の二十一日は天気もよく、「法華クラブ」の八階会場はあまり広い部屋ではなかったのですが、五十名は収容できそうでした。新婚早々の元木和雄氏の司会ではじまった大会は、私の挨拶のあと久保田先生の講演「大宇宙との一体化」。この講演内容は実に興味深いものでした。この大宇宙との一体化という実践法は、仏教という阿字観という観法を彷彿とさせるものがあり、真理というものは古代も現代も変わらないとの感を強く持ったのでした。



講演のあと、スライド「アメリカ・メキシコ・カリブ海宇宙考古学の旅」を映写。その後質疑応答は色々の質問が出ま

したが、久保田先生がアダムスキー師存命のころ、米國より日本を訪れたアグニユー・パンソン氏との会見の経緯を公開されました。会見内容での重要なインフォメーションは、アダムスキー師は米國大統領や政府高官たちからも支持されていたということ、これには久保田先生も当時大きな励みになったとのこと。後にパンソン氏は惜しくも飛行機事故で亡くなりましたが、アダムスキー師にとって善き友人だったのでこの会見が行なわれた訳です。

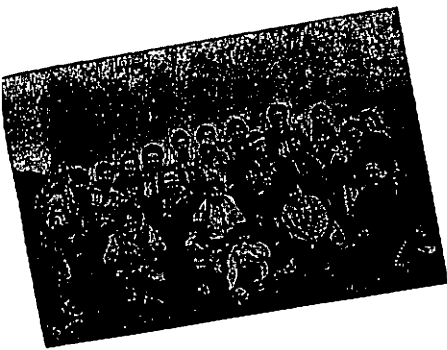
大会後、六時からの夕食会が別室で行なわれ、大盛況。その後二次会、三次会と多数の方々が参加しました。

翌二十三日は期待の大阿蘇へのドライブはあいにくの雨で中止になり、かわりに史跡トンカリンを見学。帰りに元木氏の店により長崎チャンポンをこちそうになる。参加者二十四名。夕刻は法華クラブで先生をかこんで六名で夕食を共にしました。翌二十四日は三名が久保田先生と山口氏を送って空港まで同行。これで支部大会も無事終了。参加された皆さん、それに献身的に努力された支部員の方々に難うございました。次回もよろしく。(津野田俊行記)

丹沢登山



十一月十五日、快晴に恵まれ、GAP会員有志二十四名は丹沢に登ってきました。自称登山家もおりますが、大部分の方はめったにない山登りで戸惑った方もおられました。これを機会に楽しく登ることができました。これを機会に山に親しんでいただけたいと思います。登りはやはり苦しく二の塔、三の塔に登った時は、皆「ヤッタ」「登った」という実感と、そこから見える富士山、また眼下の相模湾に歓声を上げた次第です。また帰りは、戸川林道を下り、その名の通り杉、くぬぎ等の林の間をくぐり抜け、談笑しながら下りました。そこには風の音木々のさえずり、キラキラ光るスキの光景、都会では味わえない大自然の光とオーケストラがありました。同時に日頃の運動不足も解消した方も多いようです。参加者の皆本当にありがとうございました。再び行きましょう。次の企画を楽しみに!! (田中義則記)



<予告>今年度地方支部大会(その1)

※7月以降分の支部大会は次号に掲載。

	松山支部大会	群馬支部大会	沖縄支部大会	旭川 札幌 合同支部大会
日時	3月21日(日)連休初日 午後1:00→5:30	4月25日(日) 午後1:00→5:00	5月3日(日)祭日 午前10:00→5:00	6月20日(日) 午前10:00→5:00
会場	「ホテル・シャトーテル松山」 9階会議室。 松山市三番町4丁目9-6 ☎(0899)46-2111 日本銀行松山支店前。 伊予銀行本店前向かい。	「太田市民会館」 群馬県太田市飯田町。 太田駅南口下車徒歩十分。東 京方面からは浅草より東武鉄 道の赤城直通急行で1時間半 にて太田駅下車。 料金は ¥700	「中頭(なかがみ)教育会館」ホー ル 沖縄市仲曾根4-1 ☎(09893)7-7132・7133 沖縄市の一番街(最繁華街)の 道路を渡って向かい側。稲嶺 街より30m。	総合結婚式場「三愛(さんあい) 会館」3階 旭川市4条通り8丁目(買物 公園沿い右角)。 ☎(0166)24-6111。国鉄旭川 駅より平和通り買物公園を直 進。徒歩約5分。
会費	¥2000(希望者のみ全員記念 写真代 ¥700)	¥2000(希望者のみ全員記念 写真代 ¥700)	¥2000(希望者のみ全員記念 写真代 ¥700)	¥2000(希望者のみ全員記念 写真代 ¥500)
プログラム	1:00 支部代表挨拶 (伊藤達夫) 1:05 講演「宇宙哲学とUFO 問題」(久保田会長) 2:20 休憩・全員自己紹介・ 記念撮影 3:00 記録映画「アメリカ・ メキシコ宇宙考古学の旅」 4:25 質疑応答 5:30 閉会	1:00 支部代表挨拶 (服部 久) 1:10 講演「宇宙哲学とUFO 問題」(久保田会長) 2:30 休憩・記念撮影 3:00 映画「アメリカ・メキシ コ宇宙考古学の旅」 4:00 休憩 4:10 全員自己紹介・質疑応 答 5:00 閉会	10:00 支部代表挨拶(宮城裕) 講演(有志) 10:30 講演「宇宙哲学とUFO 問題」(久保田会長) 12:00 昼食・休憩 1:00 映画「アメリカ・メキシ コ宇宙考古学の旅」 2:10 休憩・全員自己紹介・ 記念撮影 3:00 質疑応答 5:00 終了	10:00 支部代表挨拶 (石川公一・伊藤重信) 10:20 久保田会長の祝辞 10:30 支部講演 (高野省志・三上三秀) 11:30 特別講演 (松本隆司=東京) 12:00 昼食・休憩 1:00 映画「アメリカ・メキシ コ宇宙考古学の旅」 2:00 大会講演「宇宙哲学と UFO問題」 (久保田会長) 3:30 休憩・記念撮影 4:00 質疑応答(会長を囲ん での座談会形式) 5:00 閉会 <small>(まだ会う日までをラフ シブで全員話しして終了)</small>
夕食会	大会終了後6:00から8:00まで 同ホテル10階「ゴールドの間」 で希望者による夕食会を開催 (立食)。 会費 ¥3500程度	大会終了後6:00から8:00まで 別な場所で希望者による夕食 会を開催(会場未定)。 会費 約 ¥4000	大会終了後7:00から10:00ま で歓迎会及び夕食会を市内ヒ ルトンホテルで開催。 会費 ¥5000	大会終了後5:30より同会館内 別室で夕食会を開催。お楽し み抽選会やゲームあり。 会費 ¥5000 (二次会・三次会も計画)
宿舎	シャトーテル松山と全日空ホ テルをお世話します。 シングル1泊 ¥5500 ツイン1泊 ¥9000	4月24日、25日に宿泊を希望 の方は、当方で太田グランド ホテルをお世話します。旧館 シングル1泊 ¥4000、ツイン は倍。	本土から行くGAP旅行団の宿 舎はすべて現地会員宅に分散 宿泊するので、個人の申込は 不要です。	旭川駅付近の旭川ワシントン ホテルと旭川プリンスホテル をお世話します。(駅より徒歩 4分)シングル1泊 ¥4200～ ¥5000程度。ホテルによって 若干ちがう。
夕食会と宿舎の申込	夕食会出席と宿舎希望の方は ハガキに宿泊日と「夕食会参 加」と記して2月末までに下 記へお申込下さい。 〒794 愛媛県今治市賀金町1 丁目4-4、伊藤達夫 ☎(0898)22-3060	夕食会出席と宿舎希望の方は ハガキに宿泊日と「夕食会参 加」と記して3月末までに下 記へお申込下さい。 〒370-05 群馬県邑楽郡大泉町 下小泉1939-24、いずみ寮、服 部 久 ☎(0276)63-2163	沖縄在住会員で夕食会出席と 宿舎希望の方はハガキに宿泊 日と「夕食会参加」と記して 3月末までに下記へお申込下 さい。 〒904-21 沖縄市胡屋1丁目3、 稲嶺一 ☎(09893)8-2995	夕食会と宿舎希望の方はハガ キに宿泊日と「夕食会参加」と 記して5月末までに下記へお 申込下さい。観光シーズン のため早目にお願いします。 〒070 北海道旭川市神楽6条 8丁目432-22、三上三秀 ☎(0166)61-0044
備考	大会翌日は希望者のみにて市 内観光の予定。詳細は大会当 日お伝えします。 ※3月は支部大会のため月例 会は中止。	大会翌日は希望者のみで太田 市内近郊の赤城山へドライブし ます。車は支部で準備。 ※4月は支部大会のため月例 会は中止。	島内観光については本号32頁 の予告を参照。すべて団体で 行動します。 ※5月23日(日)の月例会も開催 しますのでよろしく。	大会翌日は旭川近郊を希望者 のみでドライブ。アイヌ部落、 鐘乳洞、ストーンサークル、動 物園などを見学予定。 ※6月は支部大会のため月例 会は中止。

■日本GAP地方支部大会が上記のように決定しました。各支部とも張切って準備中で、いずれも高次元な素晴らしい大会が予想されます。地方の会員の方々は都合のよい会場をお選びの上、ふるってご参加下さい。

■会長講演の演題は共通していますが、話の内容はそれぞれ異なります。いずれも興味深い講演です。

■今年度は上記の他に次の各支部大会が予定されています。詳細は次号に掲載の予定です。

静岡・名古屋合同支部大会＝7月4日(日)、会場は静岡市／青森支部大会＝7月25日(日)、会場は青森市／大阪支部大会＝9月12日(日)、会場は大阪市／熊本支部大会＝11月21日(日)、会場は近郊の温泉地。

日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第1土曜日 午後2:00→6:00	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車、改札口の真向かいスグ。	¥300	2:00→3:00 会員による体験講演。 3:00→3:30 久保田会長の「生命の科学」講義と近況報告、テレバシー練習、休憩。 4:30→6:00 自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」☎(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	300	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」(文久書林刊)を持参。東京例会における久保田会長の講演テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」☎0252-44-6766 連絡先=足立亘宏 ☎0252-62-0968	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の宇宙哲学講義録音テープを公開。テレバシー練習、座談会。
熊本支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	熊本市仁木本3-12-45 常通寺 連絡先=津野田俊行 ☎0963-52-3381	200	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」(文久書林)を持参。久保田会長の東京例会における「宇宙哲学」講義録音テープ公開。座談と研究発表。テレバシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区古沢町7-1「名古屋市民会館」特別会議室。☎(052)331-2141 国鉄・名鉄・地下鉄「金山橋駅」下車。徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468 武川充弘 ☎052-622-7339	300	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」「宇宙哲学」を持参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表、テレバシー練習、座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20	仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 ☎0222-95-0725	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、テレバシー練習、座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	福祉文化センター、小会議室。山形市小舟田町、山形駅よりバスで貯金局前下車・徒歩3分。☎0236-42-5181 連絡先=清水 正 ☎0238-21-5441	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、テレバシー練習、研究発表、座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※6月は支部大会のため月例会は中止。	中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」会議室。☎011-241-9171 連絡先=伊藤重信 ☎011-251-4331	300	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」と官製ハガキを持参。読書会、テレバシー練習、自己紹介。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	プラザ静岡ビル8階(静岡駅北口すぐ)静岡市御幸町9-1 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレバシー練習、研究発表。
旭川支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※6月は支部大会のため月例会は中止。	旭川市4条通り10丁目右1号「北海道新聞旭川支社」5F会議室。電話0166-23-2111 連絡先=石川公一 ☎0166-51-5699	500	東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。研究発表。アダムスキー著「生命の科学」を持参。質疑応答(旭川支部独自で直接会長から回答を得る)コーヒー、紅茶あり。2次会も行ふ。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30 ※3月は支部大会のため月例会は中止。	松山市民会館会議室 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060	200	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講義録音テープ公開。質疑応答、座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後2:00→6:00 ※4月は支部大会のため月例会は中止。	群馬県太田市「太田市民会館」第6会議室。 連絡先=服部 久 ☎0276-63-2163・2771	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、座談会等。
青森支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室2 ☎0177-34-0163 連絡先=中根 豊 ☎01756-3-3386		テキストとして「生命の科学」「テレバシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレバシー練習、研究発表、座談会。
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	沖縄市仲宗根4-1「中頭教育会館」4階。☎098937-7132・7133 連絡先=細誠誠 ☎09893-8-2995	300	テキストとして「生命の科学」久保田先生による宇宙哲学解説テープ公開。質疑応答。想念観察とテレバシーの研究報告。

わが国でアダムスキー問題を正しく伝える唯一の文獻である本誌は後世に残る貴重な資料となるものです。ぜひおそろえ下さい。

No.69 主要記事「アダムスキー問題と宇宙開発」キース・フリットクロフト／「ヨーロッパのUFO事情、ベルギーGAPの活動とアダムスキーの思い出」メイ・フリットクロフト／「總會を終えて」久保田八郎／「オーラと過去世の透視」

No.70 主要記事「創造主のハート」G.アダムスキー／「愛と太陽の大地」久保田八郎／「コンピューターによるUFO写真の真偽判定は正しいか」田畑忠／「質疑応答」S.ホワイティング／〈写真〉「東京上空のUFO」その他

No.74 主要記事 ●金星旅行記「死と空間を超えて」G.アダムスキー／「日本GAPとアダムスキー」久保田八郎／「超低空に舞降りた円盤」／「未永雅仁」各地支部大会詳報／「さらば空飛ぶ円盤」(2)第2章この太陽系内の宇宙活動・第3章宇宙船と重力 G.アダムスキー／その他。

No.75 主要記事「土星旅行記」(1)G.アダムスキー／「イメージ法で起こる奇跡」高梨和明／「太陽と神々の國旗歌」久保田八郎／「さらば空飛ぶ円盤」(3)第3章宇宙船と重力(続き)・第4章最近の科学の発達／その他。

※No.69より71までは各¥500。No.72から¥700。千各¥200。

「宇宙哲学」講演録音テープ

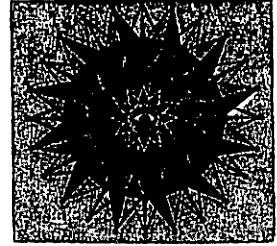
今年度東京月例会における久保田先生の毎月の講演を録音した貴重なテープ。理解を深め思想の統一を図る上で重要な資料となるものです。先生の雄大な弁舌をぜひお聴き下さい。

テープ1本(90分) ¥1000 千200

このテープの注文に限り××月分と記して必ず下記へご注文下さい(58年1月より毎月録音)。GAP本部では致しません。

千430 静岡県浜松市寺島町221

小島国弘(静岡支部所属。自宅TEL.0534-52-8502)



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①¥500 千120 ②¥200 千60一括注文の場合千120

③想念観察手帖

アダムスキーの宇宙哲学にもとづいて自己の想念印象を観察し、宇宙的想念と非宇宙的想念とに分類して記入する。宇宙的テレパシクな人間になるための必携品。1冊で1カ月分の記入が可能。¥500 千120

④テレパシー練習用ゼナーカード

アメリカで開発されて世界的に広まったテレパシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。美麗箱入り。¥500 千120

日本GAP

編集後記

★年頭に際しては多数の会員の方々より年賀状を頂き、厚くお礼を申し上げます。今年こそは日本GAPにとって飛躍的な年になるよう決意を新たにしております。変わらぬご支援のほどを。

★本号から本誌の題号を「宇宙哲学とUFO」と改題しました。これは書店に出した場合、従来の「GAPニューズレター」では一見して何のことやらわからぬため、改題する方がよいという大方の意見によるものです。これにより一人でも多くの真のカルマを持つ方が発掘されて宇宙的な方向へ歩むことを切望します。書店委託販売の労をどうとうという方は編者宛一報下さい。書店に対する交渉の仕方その他を詳述した案内書を差し上げます。★本号は昨年十月に行われたGAP總會の特集号とし、講演者四名の講演録を掲載しました。紙数の都合により残り二名分は次号にまわしますのでご了承下さい。

★毎年總會の日には会場付近上空にUFOが出現するという現象はまぎれもない事実であることが昨年も立証されました。日本GAP

日本GAP 会員募集

★日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故ジョージ・アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団！★コスミックマン(宇宙の人間)を志向する千数百名の男女会員は単にUFOの目撃報告の分析のみにとどまらず、アダムスキー氏が残した偉大なガイドブック「生命の科学」「テレパシー」等の研究実践により潜在能力の開発に研さん中！★困難を克服して力強く生きよう！意識を宇宙の彼方へ拡大しよう！★入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込もう！

日本GAP機関誌・季刊冬季号「宇宙哲学とUFO」76号
編集発行所 久保田八郎
〒133東京都江戸川区本町5-1-818
電話(651)0958
振替東京4-355912
一九八二年一月二十五日発行
定価七〇〇円送料200円

●読者の原稿を募集！
宇宙哲学究極体験、UFO目撃、宇宙科学等の原稿をお送り下さい。掲載分には謝状を差し上げます。※原稿の原簿用紙を使用し、一行を11文字で書くことと匿名・筆名可但し本名を併記のこと。

★本誌は一月、四月、七月、十月の各月末に発行する季刊誌です。会費切れの方には会費切れ通知書と振替用紙が同封してありますから早目にご送金下さいは幸いです。(K)

★本誌は一月、四月、七月、十月の各月末に発行する季刊誌です。会費切れの方には会費切れ通知書と振替用紙が同封してありますから早目にご送金下さいは幸いです。(K)

★宇宙の兄弟たちから注目的になっていることは間違いないと思います。しかしこれをもって傲慢になることなく、ますます謙虚に研鑽と活動を続けたいと思います。

★今年度の各地方支部の活動も活発に展開しようとしております。支部大会その他の行事は三十九頁をご参照下さい。特に五月初旬の沖縄支部大会には大挙して応援に行きたいものです。三十二頁の手啓をご覧の上、参加希望者は早目にお申し込み下さい。

★沖縄は八月末までUFOの飛来が激しかったけれども九月にはつらつらやんで十一月からふたたび頻りに目撃事件が再発したということとです。その他珍しい話や情報などが豊富にあるようです。沖縄支部大会と南国の旅は実り多い素晴らしい旅になるでしょう。

★アダムスキーに対する非難攻撃があとを絶たせませんが、宇宙的なカルマを持たぬ人の目動に恐ろされぬよう極力ご注意ください。ア氏も本誌の記事で述べているように、人間はある物事について一度暖感を感じて関心を失ったなら、その物事について身についていた一切のものを失って、元通りにはならないのです。これは厳に警戒すべきことです。